2025 年度

埼玉大学大学院人文社会科学研究科

博士後期課程

学 生 募 集 要 項

日本アジア文化専攻

Saitama University
埼玉大学

人文社会科学研究科 アドミッション・ポリシー

人文社会科学研究科（博士後期課程）では、次のような人に育つことを望んでいます。

日本アジア文化専攻では、文化行政、文化界などの分野への就職を希望している人、専門性を一層深め、共生社会・文化振興に寄与する意欲ある人、取り組む予定の学位論文のテーマについての問題意識・研究能力を十分に持っている人。

経済経営専攻では、社会経験等に基づき、取り組む予定の学位論文のテーマについての問題意識が明確で、そのための研究能力を十分に持っている人。

人文社会科学研究科（博士後期課程）では、上記の目標に適性をもつ人を受け入れるために、次のような入学試験を実施します。

日本アジア文化専攻、経済経営専攻とも、面接、研究計画書、研究業績等の総合審査によって判定します。

目　　次

１．募集人員……　1

２．出願資格……　1

３．出願手続……　5

４．出願手続についての注意事項……　6

５．入試方法……　7

６．入試日程……　7

７．合格発表……　8

８．入学手続……　8

９．長期履修制度……　9

10．障がい等のある入学志願者の事前相談について……　10

11．個人情報の保護について……　10

12．入試情報の開示について……　11

開設予定授業科目……　12

〔参考〕開設予定授業科目の概要……　13

教員の紹介 ……　18

◆　所定用紙

・入学志願票
・志願票・受験票・写真票　記入上の注意
・履歴書（外国人留学生用）
・入学資格個別審査申請書
・経歴書
・研究歴証明書
・収納証明書貼付用紙
・入試情報開示申請書
・コンビニエンスストアでの入学検定料払込方法

2025年度埼玉大学大学院人文社会科学研究科
博士後期課程日本アジア文化専攻学生募集要項

本研究科博士後期課程は、日本アジア文化専攻および経済経営専攻の二専攻からなり、本学既設の文化科学研究科と経済科学研究科を統合して平成27年4月に設置されました。

日本アジア文化専攻では、平成15年4月に設立された前身の文化科学研究科博士後期課程の実績を基礎に、多文化共生社会に向けて問題把握力に優れ、広い視野と総合的な判断力を備えた、日本・アジアの地域文化創成を担う指導的能力を備えた人材を育成することを目的としております。

そのため、日本アジア文化専攻では、的確な問題把握能力に優れ、広い視野と総合的な判断力を備えた指導的な高度専門職業人の養成を行うこと、さらに、これまでの社会人学生への教育実績を踏まえ、一般学生にも門戸を開き、広く高度専門職業人の養成を目指しております。

また、外国人留学生を対象とし、主として日本語・日本文化に関する教育研究者の養成を行うことも、本課程の大きな目的です。

以上の目的を実現するため、本専攻は、日本文化研究と東アジア文化研究、およびそれらと関連する分野の研究、さらに、社会の文化的環境をととのえるための諸研究を合わせて学際的に構造化し、複合的な教育研究体制を組んでいます。

１．募集人員

専　攻　名	募　集　人　員
日本アジア文化専攻	社　会　人 一　　般 外国人留学生 └── 計４名

※本募集要項は、「日本アジア文化専攻」の募集要項です。
経済経営専攻をご希望の方は、別冊子の「経済経営専攻」の募集要項をご覧ください。

２．出願資格

（１）社会人

次のＡまたはＢに該当する者

Ａ：文化行政に携わっている者(博物館・資料館等の専門調査員、学芸員を含む）、あるいは、文化関係の活動を行う機関に勤務する者、またはそれらの機関における勤務実績を有する者で、下記の（1）～（7）の各号のいずれかに該当する者

Ｂ：出願時に職を有する者で、下記（1）～（7）の各号のいずれかに該当する者

（1）　修士の学位または専門職学位を有する者、および、2025年3月までに取得見込みの者

（2）　外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、および、2025年3月までに取得見込みの者

（3）　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、および、2025年3月までに取得見込みの者

（4）　我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了

し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、および、2025 年 3 月までに取得見込みの者

(5)　国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者、および、2025 年 3 月までに取得見込みの者

(6)　外国の学校、第 4 号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第 16 条の 2 に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(7)　文部科学大臣の指定した者（【注】参照）

(8)　本研究科において個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、2025 年 3 月 31 日現在において 24 歳に達している者（【注】参照）

【注】

【出願資格審査】

出願資格（7）または（8）で出願しようとする者については、個別の入学資格審査を行いますので、提出書類を 2024 年 11 月 22 日（金）～11 月 28 日（木）（必着）までに、本研究科へ郵送または人文社会科学研究科支援室大学院係窓口（受付時間 8 時 45 分～16 時 45 分）へ持参により提出してください。郵送の場合には、簡易書留郵便で郵送してください。

審査結果は、個別に通知します。

《出願資格についての問い合わせ、および、個別の入学資格審査提出先》

〒338－8570　さいたま市桜区下大久保 255
埼玉大学大学院人文社会科学研究科支援室大学院係
℡　048－858－3320

出願資格（7）に定める「文部科学大臣の指定した者」の範囲は、次のⅠおよびⅡの要件を満たす者です。

Ⅰ　大学を卒業し、または外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者

Ⅱ　著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許などにおいて修士学位論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者

・提出書類**（以下の 6 点）**

（ⅰ）　入学資格個別審査申請書……（指定様式ⅰ）
（ⅱ）　経歴書……（指定様式ⅱ）
（ⅲ）　卒業証明書または在籍証明書(入学から卒業までの日付が記載されたもの)
（ⅳ）　研究歴証明書……（指定様式ⅲ）
（ⅴ）　業績一覧……（様式任意）
（ⅵ）　代表的な論文または著述 1 篇……（写し可）

出願資格（8）に定める「個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、2025 年 3 月 31 日現在において 24 歳に達している者」の範囲は、次のⅢおよびⅣの要件を満たす者です。

Ⅲ　大学、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者等で、大学・研究所等あるいは人文・社会科学関係分野で業務経験を有する者

Ⅳ　著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許などにおいて修士学位論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者

・提出書類**（以下の 4 点）**

（ⅰ）　入学資格個別審査申請書……（指定様式ⅰ）
（ⅱ）　経歴書……（指定様式ⅱ）
（ⅲ）　業績一覧……（様式任意）
（ⅳ）　代表的な論文または著述 1 篇……（写し可）

（２）一般

次の（1）～（7）の各号のいずれかに該当する者

（1）　修士の学位または専門職学位を有する者、および、2025 年 3 月までに取得見込みの者

（2）　外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、および、2025 年 3 月までに取得見込みの者

（3）　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、および、2025 年 3 月までに取得見込みの者

（4）　我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、および、2025 年 3 月までに取得見込みの者

（5）　国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者、および、2025 年 3 月までに取得見込みの者

（6）外国の学校、第 4 号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第 16 条の 2 に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

（7）　文部科学大臣の指定した者（【注】参照）

（8）　本研究科において個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、2025 年 3 月 31 日現在において 24 歳に達している者（【注】参照）

【注】

【出願資格審査】

出願資格（7）または（8）で出願しようとする者については、個別の入学資格審査を行いますので、提出書類を 2024 年 11 月 22 日（金）～11 月 28 日（木）（必着）までに、本研究科へ郵送または人文社会科学研究科支援室大学院係窓口（受付時間 8 時 45 分～16 時 45 分）へ持参により提出してください。郵送の場合には、簡易書留郵便で郵送してください。

審査結果は、個別に通知します。

《出願資格についての問い合わせ、および、個別の入学資格審査提出先》

〒338－8570　さいたま市桜区下大久保 255
埼玉大学大学院人文社会科学研究科支援室大学院係
℡　048－858－3320

出願資格（7）に定める「文部科学大臣の指定した者」の範囲は、次のⅠおよびⅡの要件を満たす者です。

Ⅰ　大学を卒業し、または外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者

Ⅱ　著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許などにおいて修士学位論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者

・提出書類**（以下の 6 点）**

（ⅰ）　入学資格個別審査申請書……（指定様式ⅰ）

（ⅱ）　経歴書……（指定様式ⅱ）

（ⅲ）　卒業証明書または在籍証明書(入学から卒業までの日付が記載されたもの)

（ⅳ）　研究歴証明書……（指定様式ⅲ）

（ⅴ）　業績一覧……（様式任意）

（ⅵ）　代表的な論文または著述 1 篇……（写し可）

出願資格（8）に定める「個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、2025 年 3 月 31 日現在において 24 歳に達している者」の範囲は、次のⅢおよびⅣの要件を満たす者です。

Ⅲ　大学、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者等で、大学・研究所等あるいは人文・社会科学関係分野で業務経験を有する者

Ⅳ　著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許などにおいて修士学位論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者

・提出書類**（以下の４点）**

（ⅰ）　入学資格個別審査申請書……（指定様式ⅰ）
（ⅱ）　経歴書……（指定様式ⅱ）
（ⅴ）　業績一覧……（様式任意）
（ⅵ）　代表的な論文または著述１篇……（写し可）

（３）外国人留学生

次のＡおよびＢに該当する者

Ａ：日本の国籍を有しない者

Ｂ：出入国管理および難民認定法において、大学院入学資格に支障のない在留資格（留学等）を有する者で、次の（1）～（7）の各号のいずれかに該当する者、および、取得見込みの者

(1)　修士の学位または専門職学位を有する者、および、2025 年 3 月までに取得見込みの者

(2)　外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、および、2025 年 3 月までに取得見込みの者

(3)　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、および、2025 年 3 月までに取得見込みの者

(4)　我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、および、2025 年 3 月までに取得見込みの者

(5)　国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者、および、2025 年 3 月までに取得見込みの者

(6) 外国の学校、第 4 号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第 16 条の 2 に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(7)　文部科学大臣の指定した者（【注】参照）

(8)　本研究科において個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、2025 年 3 月 31 日現在において 24 歳に達している者（【注】参照）

【注】

【出願資格審査】

出願資格（7）または（8）で出願しようとする者については、個別の入学資格審査を行いますので、提出書類を 2024 年 11 月 22 日（金）～11 月 28 日（木）（必着）までに、本研究科へ郵送または人文社会科学研究科支援室大学院係窓口（受付時間 8 時 45 分～16 時 45 分）へ持参により提出してください。郵送の場合には、簡易書留郵便で郵送してください。

審査結果は、個別に通知します。

《出願資格についての問い合わせ、および、個別の入学資格審査提出先》

〒338－8570　さいたま市桜区下大久保 255
埼玉大学大学院人文社会科学研究科支援室大学院係
℡　048－858－3320

出願資格（7）に定める「文部科学大臣の指定した者」の範囲は、次のⅠおよびⅡの要件を満たす者です。

Ⅰ　大学を卒業し、または外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者

Ⅱ　著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許などにおいて修士学位論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者

・提出書類**（以下の 6 点）**

（ⅰ）　入学資格個別審査申請書……（指定様式ⅰ）
（ⅱ）　経歴書……（指定様式ⅱ）
（ⅲ）　卒業証明書または在籍証明書(入学から卒業までの日付が記載されたもの)
（ⅳ）　研究歴証明書……（指定様式ⅲ）
（ⅴ）　業績一覧……（様式任意）
（ⅵ）　代表的な論文または著述１篇……（写し可）

出願資格（8）に定める「個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、2025 年 3 月 31 日現在において 24 歳に達している者」の範囲は、次のⅢおよびⅣの要件を満たす者です。

Ⅲ　大学、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者等で、大学・研究所等あるいは人文・社会科学関係分野で業務経験を有する者

Ⅳ　著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許などにおいて修士学位論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者

・提出書類**（以下の 4 点）**

（ⅰ）　入学資格個別審査申請書……（指定様式ⅰ）
（ⅱ）　経歴書……（指定様式ⅱ）
（ⅴ）　業績一覧……（様式任意）
（ⅵ）　代表的な論文または著述１篇……（写し可）

３．出願手続

出願方法	**郵送または大学院人文社会科学研究科支援室大学院係窓口** **（受付時間　8時45分～16時45分(土・日・祝日を除く)）で受け付けます。** 郵送の場合、必要事項をもれなく記入し、提出書類等を一括封入して、封筒の表に**「人文社会科学研究科日本アジア文化専攻入学志願書類在中」と朱書し簡易書留郵便で発送**してください。
出願期間	**2025年1月7日（火）～2025年1月17日（金）** **期間内必着**です。（1月18日以降に本学に到着した場合でも、1月16日までの消印があり、速達・簡易書留扱いのものに限り受け付けます。）

提出書類等

以下の書類は、日本語もしくは英語で作成してください。

入学志願票 受験票 写真票	所定の用紙に必要事項をもれなく記入してください。 写真は、出願3ヶ月以内に撮影した脱帽正面上半身のものを使用してください。
研究業績	修士論文、または研究計画に関わる公刊された研究業績（著作･論文）のうち合計3点以内、各4部ずつを提出してください（写し可）。 代表的な研究業績に◎を付してください。

修士論文または研究業績の概要	提出した修士論文または研究業績については、その概要をそれぞれ日本語の場合各1,000字程度、英語の場合各500ワード程度で記述して、各4部を提出してください。 ※出願期間に修士論文を提出できない場合には提出先の大学院人文社会科学研究科支援室大学院係（048-858-3320）へご連絡ください。
研究計画書	研究題目をつけて日本語の場合4,800字程度、英語の場合2,400ワード程度にまとめ4部提出してください。 出願手続についての注意事項を参照してください。
修士課程・博士前期課程の修了（見込）証明書、成績証明書	出身大学の学長または研究科長が証明し、厳封したものを提出してください（ただし、本研究科の在籍者は厳封の必要はありません）。
検定料	30,000円をコンビニエンスストアで払い込んでください。 最終頁の「コンビニエンスストアでの入学検定料払込方法」を参照。 ※１　出願期間を過ぎると受付できませんので、早い時期（出願期間前でも可）に検定料を払い込んでください。 **※２　ただし、2025年3月に本学大学院の博士前期課程または修士課程を修了見込みの者は不要です。**
収納証明書貼付用紙	本研究科所定の用紙にコンビニエンスストアで受け取った「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の「収納証明書」を貼付したもの。
定型封筒	受験票送付用として使用。封筒（定形、12.0㎝×23.5㎝）に宛先を明記し、110円切手を貼付したもの。
外国人留学生は、履歴書（本研究科所定の用紙）および在留カードの写し（表裏の両面をコピーしたもの）または住民票（在留資格および在留期間の明記されたもの）を提出してください。 なお、出願時に在留カードの写しまたは住民票を提出できない者は、パスポートの写しを提出してください。その場合、試験当日にパスポートを持参し、係員に提示してください。 国費外国人留学生は、「国費留学生証明書」（在籍大学で発行）を添付してください。	
提出先	〒338－8570　さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学大学院人文社会科学研究科支援室大学院係 ℡　048－858－3320

４．出願手続についての注意事項

（１）研究計画書には、研究題目および氏名を記載した表紙を付けたうえ、本文において、志望するに至った動機および入学後、何を学び、どのような研究課題を探求しようとしているのかについて、社会人は自己の職歴との関係が、外国人留学生は自己の研究歴との関係が明らかになるように具体的に記載してください。

用紙は、A4 判縦長で（横書き）で記載するものとします。ただし、引用文献や固有名詞について、原題の記載または原語の使用を認めます。

パソコンで作成する場合は、40 字×30 行で 4 枚程度、手書きで作成する場合は 400 字詰め原稿用紙に 12 枚程度とします。

なお、研究計画書の作成において生成 AI を利用することを禁止します。

（２）**研究業績以外の外国語（英語を除く）による書類は、日本語の訳文を必ず添付してください。**

（３）必要な書類等がすべてそろっていない場合には受付できませんので、出願の際には十分確認してください。
（４）出願手続後の願書記載事項の変更は認めません。ただし、住所、電話番号に変更があった場合には、人文社会科学研究科支援室大学院係まで連絡してください。
　また、提出書類の記載事項と事実が相違していることが判明した場合には、入学後でも入学を取り消すことがあります。
（５）出願書類受付後は、提出書類（研究業績を除く）の返却および検定料の返還はしません。
　ただし、次の場合に限り検定料の返還請求ができます。
　①　検定料を払い込んだが、出願しなかった（出願書類を提出しなかったまたは出願が受理されなかった）場合。
　②　検定料を誤って二重に払い込んだ場合。
　③　出願時に検定料免除を申請し、後日、本学に罹災証明書が提出された場合。
　返還請求の方法は、本学ホームページ上（https://www.saitama-u.ac.jp/entrance/exam_info/henkanseikyu.pdf）から返還請求書をプリントアウトし、必要事項を記入のうえ、「収納証明書」を添付（上記①、②の場合のみ）して下記送付先へ速やかに郵送してください（封筒には返還請求書在中と記入してください）。
　返還は、請求書受理後２ヶ月程度かかります。
　送付先　〒338-8570　さいたま市桜区下大久保 255　埼玉大学財務部経理課出納担当
（６）検定料の免除について
　学資負担者が2024年4月1日から出願時までに、災害救助法が適用された地域（災害救助法適用地域）で被災した場合で、地方公共団体が発行する全壊・流失・半壊の罹災証明を得られた志願者の検定料を免除します。
　検定料の免除を希望する志願者は、本学ホームページ上（https://www.saitama-u.ac.jp/entrance/exam_info/exemption/）から検定料免除願をプリントアウトし、必要事項を記入のうえ、罹災証明書等を添付して出願書類と同時に提出してください。（この場合は、検定料を払わないでください。）
　なお、出願時に罹災証明書等を提出できない場合は、検定料を払い込んだうえ、検定料免除願のみを提出してください。後日、罹災証明書を提出した場合に検定料を還付します。
（７）入学後に、他の研究科との二重在籍が判明した場合には、除籍となることがあります。
（８）出願手続等に不明な点がある場合は、人文社会科学研究科支援室大学院係に照会してください。（電話　048－858－3320）
　電話での問い合わせは、平日の９時から 17 時の時間内に志願者本人が行ってください。
　ただし、検査内容に関する問い合わせには一切応じません。

５．入試方法

　入学者の選抜は、面接、研究計画書および研究業績等の総合審査によって行われます。
なお、外国人留学生については、研究分野により日本語能力検査の結果も考慮します。

６．入試日程

期　　日	時　　間	検　査　科　目	試験会場
2025年2月15日（土）、 16日（日）【注1】	10：00～	面　　接	埼玉大学

【注 1】試験日は、原則として 2 月 15 日ですが、出願者数により 15 日、16 日の二日間になる場合もあります。詳細は、出願受付後に郵送する「受験者心得」によりお知らせします。

７．合格発表

2025 年 2 月 20 日（木）14 時に、合格者の受験番号を人文社会科学研究科ホームページ上で発表します。

合格者には、合格通知書および入学手続に必要な書類を郵送します。

また、合否についての電話による照会には応じません。

８．入学手続

手 続 方 法	郵送による
手 続 期 限	2025 年 3 月 14 日（金）必着
提 出 書 類	（1）埼玉大学大学院人文社会科学研究科（博士後期課程）受験票 （2）その他、本学の指定する書類等（合格者に通知します）
納　付　金	2025年度入学者は、入学料が282,000円、授業料は（前期分）267,900円、（年額）535,800円。【予定額】 **ただし、2025年3月に本学の博士前期課程または修士課程を修了見込みの者は、入学料は不要です。**

※注意事項

1　入学手続は、本学が指定した提出書類等を郵送により行ってください。詳細については合格者にお知らせします。

2　上記の手続期限までに入学手続を行わなかった者は、入学辞退者として取り扱います。

3　入学手続を行った者が 2025 年 3 月 31 日 17 時までに入学を辞退した場合には、納付した者の申し出により、当該授業料相当額を返還します。

4　授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に後期分も併せて納付することができます。

5　入学時には上記入学料等のほか、学生教育研究災害傷害保険料など、若干の諸経費が必要となります。

6　在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

7　経済的理由等で入学料・授業料の納入が著しく困難であると認められる者については、選考のうえ、免除または徴収猶予する制度があります。詳細については合格者にお知らせします。

９．長期履修制度

本研究科には、長期履修制度があります。

（１）長期履修制度とは

博士後期課程では 3 年が標準履修年限となっています。ここで、博士後期課程を最長 6 年で修了する計画の大学院学生は、入学時に申請し、この制度を適用すれば修了までに標準履修年限分の授業料を納めればよいことになります。例えば、博士後期課程を 4 年で修了したい場合、3 年分の授業料総額÷4 の授業料を毎年納めればよいことになります（注）。職業を持ちながら就学している方、家事・育児・介護をしている方などの便宜を考えた制度です。

【注】入学後に長期履修を申請し、認められた場合は 3 年分の授業料以上の金額を納入しなければならない場合があります。

（２）長期履修制度への申請資格

次の①および②を充たすことが申請の条件です。

① 次のいずれかであること
　イ．新たに大学院人文社会科学研究科に入学（進学を含む）する者
　ロ．既に入学し、入学後 2 年未満である者

② 次のいずれかに該当し、標準履修年限内での修学が困難であること
　イ．職業を有し、就業している者（自営業および臨時雇用(単発的なものを除く）を含む)
　ロ．家事、育児、介護等の事情がある者
　ハ．心身の障がいを有する者
　ニ．その他学長が相当と認めた者

（３）長期履修を認める期間

長期履修を認める期間の上限は、入学から通算して 6 年です。

（４）その他

申請者は決められた期間に必要な書類を提出し、審査を受けなければなりません。
長期履修を認められた後に履修期間を変更する申請をすることもできます。
本制度の趣旨に沿わない理由での申請は対象外となります。

（５）問い合わせ先

電話でのお問い合わせは下記にお願いします。
埼玉大学大学院人文社会科学研究科支援室大学院係　048－858－3320
なお、電話での問い合わせは、平日の 9 時から 17 時までに行ってください。

10. 障がい等のある入学志願者の事前相談について

（１）障がい等のある者〔体幹および両上下肢の機能障がいが著しい者で、代筆解答を希望する者（以下「代筆解答希望者」という。）を含む。〕への受験上および修学上の配慮

ア　障がい等のある者（代筆解答希望者を含む。）が受験上の配慮を希望する場合には、本人または代理人からの申請に基づき、障がいの種類・程度に応じて本研究科が審査のうえ、受験に際して特別の配慮を行います。

イ　受験上および修学上の配慮を希望する者は、「令和〇年度埼玉大学入学者選抜試験受験上及び修学上の配慮申請書」（本学様式）により、出願の前にあらかじめ本研究科に申し出てください。

連絡先 〒338-8570　埼玉県さいたま市桜区下大久保 255 埼玉大学大学院人文社会科学研究科支援室大学院係 電話 048－858－3320（平日 9 時～17 時）FAX 048-858-3686

ウ　受験上および修学上の配慮について質問がある場合は、上記連絡先に問い合わせください。

（２）申請書提出時期

2024 年 11 月 28 日（木）までを目安としますが、それ以降でも相談が可能な場合に限り対応します。ただし、代筆解答希望者はできるだけ早い時期にしてください。

（３）申請の方法

「令和〇年度埼玉大学入学者選抜試験受験上及び修学上の配慮申請書」（本学様式）を https://www.saitama-u.ac.jp/entrance/exam_info/consultation/hairyo-shinsei.pdf からダウンロードし、必要事項を記入のうえ、診断書（発行後 6 ヶ月以内の原本）を添えて提出してください。なお、必要に応じ、本研究科において当該志願者または保護者若しくはその立場を代弁し得る出身学校関係者等の面談をすることがあります。

（４）その他

この申請で受験許可を得た者は、出願書類を郵送後、その旨を上記の連絡先に電話連絡してください。

この申請で受験許可を得た者が、出願を辞退、若しくは出願したが受験しない場合は、速やかに上記連絡先に電話連絡してください。

11. 個人情報の保護について

出願書類により取得した個人情報および試験成績の個人情報については、入学者選抜に関する業務に限り使用します。

ただし、入学者のみ（１）教務関係（学籍、修学指導等）、（２）学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除、奨学金申請等）、（３）授業料徴収に関する業務を行うためにも使用します。

12. 入試情報の開示について

埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程日本アジア文化専攻では、2025 年度入試情報について、受験者本人からの申し込みに基づき開示します（代理人による申し込みはできません）。

（１）開示対象者

本募集要項による入試を受験し、不合格になった者のみが対象となります。

（２）開 示 内 容

面接試験の得点

（３）申 込 方 法

以下の①から③を取り揃え封筒に入れて、下記申込先まで郵送または持参してください。

① 「埼玉大学大学院人文社会科学研究科（博士後期課程）入試情報開示申請書」（本学生募集要項に添付）

② 返信先の住所・氏名を記載し、460 円分の切手を貼付した返信用封筒（定型（12,0cm×23,5cm）、「簡易書留」と朱書すること）

③ 本学の受験票（本人確認のため、正本に限る。コピー不可）

※ 受験票は、開示情報の通知とともに返却いたします。

（４）申 込 期 間

2025 年 5 月 7 日（水）～2025 年 5 月 13 日（火）

（５）申　込　先

〒338-8570　埼玉県さいたま市桜区下大久保 255
埼玉大学大学院人文社会科学研究科大学院係
※「入試情報開示請求」と朱書きすること。

（６）提 供 方 法

②の返信用封筒により、簡易書留にて郵送します。

開設予定授業科目

〈言語文化研究系科目〉

日本語研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
日本語文法研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
日本語教育研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
日本語音声教育研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
言語学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
比較教育研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
日本近世文学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
日本近現代文学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
中国近現代史研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
アメリカ史研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

〈歴史哲学文化研究系科目〉

哲学史研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
日本歴史学研究特論（近世）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
日本歴史学研究特論（近代）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
東アジア考古学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
中国古典研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
韓国近現代文学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
日本古典文学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

〈社会文化環境研究系科目〉

歴史社会学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
Comparative Economic Development in Southeast Asia Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
開発・援助の比較政治経済研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
国際政治学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
国際政治経済学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
開発社会学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
地域文化政策研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
文化遺産学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
環境人類学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
社会地理学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
社会運動研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
美学芸術学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
美術史学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
Research Topics in Media and Visual Communication Studies Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

〈特別演習科目〉

特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

〔 参 考 〕　　開設予定授業科目の概要

博士後期課程

授　業　科　目　名	単位数	講　義　等　の　概　要
日本語研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：川野　靖子	2	文献講読と研究発表を通じて、日本語学の博士論文を書くのに必要な分析力や論述力などを養う。
日本語文法研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：金井　勇人	2	日本語学・日本語教育の博士論文を書くために十分な日本語文法に関する知識を体系的に習得することを目標とします。
日本語教育研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：劉　志偉	2	参加者はそれぞれの個人研究計画に従い、研究発表を行う。最新の研究動向に注目しつつ、具体的な研究手法や論述の構成等を議論してゆく。
日本語音声教育研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：鮮于　媚	2	参加者はそれぞれの個人研究計画に従い、研究発表・文献購読を行う。日本語音声教育研究に必要な知識・調査方法を体系的に習得し、学術論文としてまとめる。
言語学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：山中　信彦	2	言語に関連する文献を読んで視野を広げるとともに、発表を通じて博士論文を書くのに必要な構想力・分析力・論証力を養う。
比較教育研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：長沢　誠	2	比較教育研究特論は、世界各国の教育制度、教育方針、及び実践方法を比較・分析することを目的としている。本講義では、教育の社会的・文化的背景、歴史的変遷、教育制度の違いや共通点、さらには国際的な教育課題について研究する。受講生は、異なる文化や経済状況下での教育システムの理解を深め、国際的な視野を持つ研究者として知識とスキルを習得することを目的とする。
日本近世文学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：ビュールク　トーヴェ	2	参加者の方のそれぞれの研究計画に従い、基本文献解説・研究、個別研究発表、論文指導を行う。
日本近現代文学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：杉浦　　晋	2	参加者それぞれの研究計画に従い、基本文献解説・研究、個別研究発表、論文指導を行う。
中国近現代史研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：久保　茉莉子	2	主に19世紀以降における中国およびその周辺諸国の動向や、ユーラシア東部の国際関係について、先行研究や史料を輪読しながら理解を深める。受講者の研究発表等も行い、歴史学分野の博士論文執筆に際して身につけておくべき基本事項も学ぶ。

アメリカ史研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：宮田　伊知郎	2	主に南北戦争以降の出来事について書かれたアメリカ史の代表的な研究を読み、史学史の流れを理解しつつ、歴史学の理論と実践について学ぶ。
哲学史研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：高橋　克也	2	西洋哲学と東洋哲学、哲学と現代社会といった関係性を重視しながら、思想史や現代哲学に関わる諸問題を研究・討議する。
日本歴史学研究特論（近世）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：井上　智勝	2	日本近世社会の諸相を古文書の原本・写真版を活用しながら、東アジア諸国との比較史の観点も組み込んで検討する。古文書（くずし字）の判読力を要する。
日本歴史学研究特論（近代）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：一ノ瀬　俊也	2	日本における文化・社会の形成およびその特質について、東アジア諸国との比較の見地をふまえながら、歴史的に考察する。
東アジア考古学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：中村　大介	2	国内外の有用な分析方法を自己の研究分野に応用した発表を課題とする。また、対象とする地域だけの考察でなく、広く東アジア的な視点から検討を進めることを望む。
中国古典研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：西山　尚志	2	参加者それぞれの研究計画に従い、中国古典文献の読解および中国古典学に関わる論文読解・研究発表・解説・論文指導などを行う。
韓国近現代文学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：柳川　陽介	2	韓国近現代文学をめぐる諸問題について、作品と批評の輪読をとおして検討する。
日本古典文学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：舘野　文昭	2	日本古典文学及びそれに関連する諸テクストの輪読や論文紹介を行う。受講者それぞれの研究報告もあわせて実施する。
歴史社会学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：佐藤　雅浩	2	受講者のそれぞれの研究計画に従い、歴史社会学に関する文献の輪読、個別研究発表、論文指導等を行う。
Comparative Economic Development in Southeast Asia I･II･III 担当：サムレト　ソワンルン	2	グローバル化の進展にともない、政治や経済などの様々な分野における日本と東南アジア諸国の関係はますます密接になってきている。そのため，東南アジア諸国の開発の諸問題を理解することは日本にとっても重要である。この授業では、経済学の観点から東南アジア諸国における開発の諸問題を学んでいく。講義では、開発経済学に必要な理論および分析手法を習得すると同時に、開発問題の実例も紹介していく。

開発・援助の比較政治経済研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：近藤　久洋	2	開発途上国の開発と援助に関する諸問題を、政治経済学的な側面から研究をしてゆく。特に、ガバナンス・政治体制（民主主義・権威主義）に関する理論・事例を、学生の関心に応じて分析してゆく。そのため、学生の関心に応じた先行研究の検討からアウトプット（論文執筆）までを行うことを目的とし、口頭報告・ディスカッション・コメントを中心に展開する。
国際政治学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：草野　大希	2	国際政治学に関わる文献・資料の講読、レポート提出、研究発表などを通して、国際政治学分野の博士論文を執筆するのに十分な分析力や論述力を涵養する。
国際政治経済学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：冨田　晃正	2	参加者はそれぞれの個人研究計画に 従い、研究発表を行う。最新の国際政治経済学の研究動向に注目しつつ、具体的な研究手法や論述の構成等を、最新の文献に基づき議論してゆく。
開発社会学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：東　智美	2	「グローバル」な政治経済システムの下で起きている格差の拡大や新たな貧困の創出といった現象や国際開発の正負の影響について、「ローカル」な文脈を掴みながら分析していく。受講者それぞれの研究計画に沿って、文献購読、口頭発表、ディスカッション、教員による解説や事例紹介を通して、開発社会学の理論や分析手法を習得する。
地域文化政策研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：市橋　秀夫	2	イギリスにおけるいくつかの自治体の文化政策の歴史あるいは現状についてサーベイし、一定の水準で、その特色と問題点を明らかにして把握すること、また日本の歴史的経験あるいは現状と比較考察することを目的とする。 文献のサーベイ、中身の検討、報告とディスカッションを行う。
文化遺産学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：井口　欣也	2	文明形成過程と文化遺産をめぐる諸問題 以下の2つの問題に関連する参加者の研究発表と討議をおこなう。 ①人類史における文明の形成過程をめぐる諸問題 ②文化遺産の保全と活用に関する諸問題

環境人類学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：三浦　敦	2	環境と開発をめぐる諸問題 環境と人間社会の関わりに関する基本文献を読むことを通じて、環境人類学理論理解の深化をめざす。
社会地理学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当:キーナー　ヨハネス	2	社会と空間の関係をめぐる諸問題 参加者は様々な社会現象を位置、分布、領域などの地理学的な視点から議論する。博士論文のテーマに関する内容を課題にしながら、個人研究計画に従って文献購読と研究発表を行う。
社会運動研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：小杉　亮子	2	参加者それぞれの研究計画をふまえ、社会運動論の文献購読、参加者の研究発表と解説、論文指導などをおこなう。
美学芸術学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：加藤　有希子	2	「美学／感性学」のディシプリンに基づき、研究対象における美術、哲学、歴史、社会学、科学などを掘り下げて考察していく。このテーマをもとに、受講生の博士論文準備に向けて、文献処理、読解、執筆、プレゼンテーションへの個別指導を行う。
美術史学研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 担当：辻　絵理子	2	受講者それぞれの研究計画に沿って、先行研究の読解とまとめ、個別の研究発表を行ってもらいます。それらを踏まえて研究指導を行います。
Research Topics in Media and Visual Communication Studies I･II･III 担当：ザラパップ，ジリア	2	In this course we take a look at doctoral level research in the fields of Media and Visual Communication Studies. We will address diverse research methods in relation to research data collection and analysis in these fields. We will also take a look at the pertinent theories to use in doctoral research in order to establish relevant hypotheses as foundation of the research. Finally, we will analyze how to reach research conclusions, how to document our sources and databases and how to achieve aims such as participation in conferences, publishing or co-publishing research papers and aiming for further research and academic exposure.

教　員　の　紹　介

この教員紹介を参考にして「入学志願票」の希望指導教員名欄に記入してください（５０音順）。

一ノ瀬 俊也　教授

専門分野

日本近現代史、とくに軍事史・社会史

研究紹介

近代の日本がなぜ対外戦争を繰り返していったのか、なぜ当時の人々は本来嫌なはずの戦争や軍隊の存在を受入れていったのかについて研究しています。具体的な課題としては、兵士に軍隊の存在意義を正当化する場としての軍隊教育や、働き手をとられて困窮している兵士の家族に対する生活援護の実態をとりあげてきました。最近では戦場における兵士の意識のあり方にも関心を広げています。

著書・論文

『近代日本の徴兵制と社会』吉川弘文館、2004 年

『明治・大正・昭和 軍隊マニュアル 人はなぜ戦場へ行ったのか』光文社新書、2004 年

『銃後の社会史 戦死者と遺族』吉川弘文館、2005 年

『日本軍事史』 （共著 「近代」・「戦後」編を執筆） 吉川弘文館、2006 年

『戦場に舞ったビラ 伝単で読み直す太平洋戦争』講談社選書メチエ、2007 年

『旅順と南京 日中五十年戦争の起源』文春新書、2007 年

学　　位　　博士（比較社会文化）（2003 年、九州大学）

市橋　秀夫　教授

専門分野

地域文化政策研究、余暇史、イギリス近現代社会史

研究紹介

地域文化政策や余暇、社会史的な視点から、近現代のイギリス社会および日本社会を見直す作業をしています。とくに、２０世紀イギリスにおけるレジャーや各種文化支援政策について、また、ひろく社会規範の変容と連続について、実証的な社会史研究に取り組んでいます。

著書・論文

「大衆社会への離陸」（特集・戦後レジャー「生産」の軌跡）『Leisure and Recreation（自由時間研究）』、日本レクリエーション協会紀要、18 号、1996 年「スポーツ市場の分析」『スポーツの経済学』、杏林書院、1999 年

「英国戦後復興期における地域芸術文化政策の展開」『文化経済学』、第 2 巻、第 3 号、2001 年。

「映画と政府－－20 世紀前半におけるイギリス＜映画政策＞の展開」『文化経済学』、第 3 巻、第 2 号、2002 年

「戦後イギリス労働党における改革派の挑戦」『社会経済史学』第 67 巻、第 6 号、2002 年（長谷川淳一との共著）

「英国オックスファムとは何か？（後篇）二〇世紀の社会史から見たオックスファム像」クォータリー『at』，第 5 号，2006 年

「ウルフェンデン報告書と価値規範の変容－イギリスにおける同性愛犯罪法改革の社会史 1957～ 1959 年」『埼玉大学紀要 教養学部』42 巻，1 号，2006 年

「私的自由の境界―戦間期イギリスにおける同性愛犯罪法改正論議（上）―」『埼玉大学紀要 教養学部』43 巻，2 号，2007 年

「私的自由の境界―戦間期イギリスにおける同性愛犯罪法改正論議（中）」『埼玉大学紀要　教養学部』，第 46 巻，第 1 号，2010 年，1-30 頁

「ニュー・カルチャーの誕生？――1960 年代文化の再考――」井野瀬久美惠編『イギリス文化史』（昭和堂、2010 年），第 14 章，275-91 頁

「戦後社会の模索」木畑洋一・秋田茂編『近代イギリスの歴史　16 世紀から現代まで』（ミネルヴァ書房、2011 年）、第 7 章、161-88 頁

「戦後イギリスにおけるリクリエーショナル・スポーツの変容――コヴェントリ市の経験に即して」早稲田大学ス

ポーツマネジメント研究会編『スポーツマネジメント　教育の課題と展望』（創文企画、2013 年）40-51 頁
「イギリスにおけるスポーツ選手の労働力移動――歴史的研究の諸論点」早稲田大学スポーツマネジメント研究会編『グローバル・スポーツの課題と展望』（創文企画、2014 年），129-43 頁
「日本におけるベトナム反戦運動史の一研究――福岡・十の日デモの時代（1）」『日本アジア研究』11 号，2015 年，131-63 頁
「『スポーツ史』リテラシーの効用と歴史研究――イギリス・スポーツ史研究を振り返る」早稲田大学スポーツマネジメント研究会編『スポーツリテラシー』（創文企画、2015 年），90-105 頁
「日本におけるベトナム反戦運動史の一研究――福岡・十の日デモの時代（2）」『日本アジア研究』12 号，2015 年，65-105 頁
「イギリスにおける企業スポーツの発展と衰退」笹川スポーツ財団編『企業スポーツの現状と展望』創文企画、2016 年、149-170 頁。
`The Reception of E. P. Thompson in Japan: The New Left, The Making and ″Moral Economy″', in International Review of Social History, vo. 61, pt. 1, 2016, pp. 51-74.

翻　　訳

Ｍ・Ｂ・ブラウン『フェア・トレード　公正なる貿易を求めて』（共訳）、新評論、1998 年
Ｓ・ハンフリーズ、Ｐ・ゴードン『「障害者」を生きる』、青弓社、2001 年
Ｄ・スロスビー『文化経済学入門－－創造性の探求から都市再生まで』（共訳）、日本経済新聞社、2002 年
Ｅ・Ｐ・トムスン『イングランド労働者階級の形成』青弓社、2003 年
Ｄ・ランサム『フェア・トレードとは何か』青土社、2004 年
ピーター・クラーク『イギリス現代史 1900-2000』（共訳），2004 年，名古屋大学出版会
キャスリーン・バーク『オックスフォードブリテン諸島の歴史　第 11 巻　20 世紀　1945 年以降』（共訳書、西沢保ほか 5 名）慶応義塾大学出版局、2014 年

学　　位　PhD in Social History（1994 年、英国ウォーリック大学）

井上　智勝　教授

専門分野

東アジア宗教社会史　日本近世史

研究紹介

東アジアの広がりの中で、主に宗教や祭儀の視点から、江戸時代以前の日本の社会・文化を位置づけ直す研究を進めています。東アジア諸国との比較の観点を重視し、中国・韓国・越南(ベトナム)での現地調査や、海外の研究者との研究交流を積極的に行っています。

著書・論文

『近世の神社と朝廷権威』（吉川弘文館、2007 年）
『吉田神道の四百年―神と葵の近世史』〔講談社選書メチエ〕（講談社、2013 年）
『近世の宗教と社会２　国家権力と宗教』（共編著、吉川弘文館、2008 年）
「幕末維新期の仏教天文学と社会・地域－梵暦運動研究の射程－」明治維新史学会編『明治維新と文化』（吉川弘文館刊、2005 年 8 月）
「近世の易占書―士君子の易・市民の易と疾病・祟り・米相場―」『口頭伝承と文字文化　文字の民俗学・声の歴史学』（思文閣出版、2009 年）
「近世期の東アジア諸国における国家祭祀―中国・朝鮮・ベトナム・琉球から徳川政権を考える―」『東アジアの思想と文化』2 号　（2010 年 10 月）
「「蛮夷」たちの「中華」―近世期日本・朝鮮・ベトナムの小中華意識と国家祭祀」『新しい歴史学のために』279、（2011 年）
「前田家御寶塔－上野国七日市藩の藩祖顕彰と幕藩領主の「大祖廟」－」山本隆志編『日本中世政治文化論の射

程』（思文閣出版刊、2012 年 5 月）

学　　位　　博士（文学）（2006年、筑波大学）

井口　欣也　教授

専門分野

文化人類学、アンデス考古学

研究紹介

南米のペルーをフィールドとして、アンデス文明形成過程を研究しています。主に神殿（公共祭祀建造物）遺跡の発掘調査によって得られる考古資料の分析から、社会複雑化の過程を探求することを主要な研究テーマとしています。また、遺跡や考古資料など、文化遺産の現代社会における活用についても、実践的な活動を通じて研究しています。

著書・論文

「チャビン問題再考：中央アンデス地域形成期研究の新たな展開にむけて」（『リトルワールド研究報告』13:1-35, 1996 年）「神殿・文明・社会：中央アンデス地域形成期の神殿からみた文明の形成過程と社会の展開について」

（『ラテンアメリカ研究年報』17: 81-107, 1997 年）

"La cerámica de Kuntur Wasi y el problema Chavín." (*Boletín de Arqueología PUCP*, 2: 161-180, 1998）

「神殿と図像：中央アンデス地帯形成期のクントゥル・ワシ神殿における図像表現の変容プロセス」（『国立民族学博物館研究報告』25(3): 385-431, 2001 年）

「ペルー、ワヌコ盆地一般調査概報」（共著,『古代アメリカ』5: 69-88, 2002 年）

「ペルー、サハラパタク遺跡の発掘調査」（共著, 『古代アメリカ』6: 35-52, 2003 年）

「日本のアンデス文明研究の展開－近年の形成期研究を中心に」大貫良夫他（編著）, 『古代アンデス神殿から始まる文明』, pp.249-266, 朝日新聞出版, 2010 年）

“La arquitectura de Kuntur Wasi : secuencia constructiva y cronología de un centro ceremonial del Período Formativo.” (*Boletín de Arqueología PUCP*, 12:219-247, 2010) .

Gemelos Prístinos: el tesoro del templo Kuntur Wasi（共著, Fondo editorial del congreso del Perú, 2011）.

“Cronología del Período Formativo de la sierra norte del Perú: Una consideración desde el punto de vista de la cronología local de Kuntur Wasi.”（Yuji Seki (ed.), *El Centro Ceremonial Andino: Nuevas Perspectivas para los Período Arcaico y Formativo, Senri Ethnological Sutudies*, 89, pp.123-158, 2014）

「クントゥル・ワシ神殿の変容過程と権力の形成：形成期後期の神殿革新は社会に何をもたらしたのか」, 関雄二（編）『アンデス文明：神殿から読み取る権力の世界』, pp.321-354, 臨川書店, 2017 年）

“Looking for the Right Outcrop: Ceramic Petrography in the Peruvian Andes.”（共著、M. Ownby, I. Druc, and M. Masucci (eds), *Integrative Approaches in Ceramic Petrography*, pp.144-156, University of Utah Press, 2017）.

“Socioeconomic Transformation at the Ceremonial Center of Kuntur Wasi: Raw Materials, Craft Production, and Leadership.” （共著, R. L. Burger, L. Salazar, and Y. Seki (eds.), *Perspectives on Early Andean Civilization in Peru: Interaction, Authority, and Socioeconomic Organization during the First and Second Millennia BC*, pp.83-95, Yale University Department of Anthropology and the Peabody Museum of Natural History, 2020）.

「社会の核としての神殿：遠隔地との交流はなぜ生じ、何を社会にもたらしたのか」, 山本睦他（編）『アンデス文明ハンドブック』, pp.64-80, 臨川書店, 2022 年.

“Transformation Process of the Ceremonial Center and Interactions at Kuntur Wasi in the Northern Highlands of Peru”, Yuji Seki (ed.), *Chronology, Interaction, and Social Organization.* (*Senri Ethnological Studies* 112), pp.197-224, 2023.

加藤　有希子　准教授

専門分野

近現代美術史、表象文化論、色彩論、美学

研究紹介

広く近現代美術に関わる問題を、美学的、哲学的、社会学的、科学史的に多方面から見ていく研究を行っています。専門はスーラ、シニャックに始まる点描論ですが、そこから派生する文化的問題、社会的問題を積極的に取り上げます。現在、19 世紀から 21 世紀の点描芸術を概観する著書の執筆を行っています。

著書・論文

『新印象派のプラグマティズム』、三元社、2012 年 3 月（単著）。

『カラーセラピーと高度消費社会の信仰――ニューエイジ、スピリチュアル、自己啓発とはなにか？』、サンガ、2015 年 10 月（単著）

『クラウドジャーニー』、水声社、2021 年 7 月（単著）

『色彩からみる近代美術』所収、三元社、2013 年 6 月（共著）

『ゆらぎ　ブリジット・ライリーの絵画』展図録、DIC 川村記念美術館、2018 年 5 月（共著）

Globalizing Impressionism: Reception, Translation, Transnationalism, Yale University Press ‘A&Ae Portal), July 2020（共著）

「ミクロコスモスとしての色彩環――ドローネーとグレーズによる 1930 年代壁画制作原理」、『美學』、第 54 巻第 2 号、56－69 頁、2003。

「回転と飛躍――R・ドローネーにみる近代色彩論の一系譜」、『芸術学』8 号、3－22 頁、2005。

“The Life of Color -- Color as Cross-Media – John Ruskin and Afterwards,” *Ars Vivendi Journal*, vol. 3, Ritsumeikan University, February 2013, pp. 69-82.

「芸術と生活の分水嶺――アート解体の歴史から新印象派を再考する――」、『哲学』第 132 集（特集・美学・芸術学「美・芸・感性をめぐる知のスパイラル（旋回）」、三田哲学会、2014 年 3 月 23 日、281－307 頁。

“The Border between Art and Life: Reconsidering Neo-Impressionism within the History of Deconstructing Art,” *Aesthetics* (『国際版美学』), No. 21 (February, 2018), pp. 97-110.

「芸術祭の時代――政治か経済か、変わる芸術の役割」、『芸術学』21 号（2018 年 3 月）、三田芸術学会、72－87 頁。

“Between Life and Non-life: Sachiko Kodama’s Black and Bridget Riley’s Pink,″ *AM Journal of Art and Media Studies*, vol. 19 (Contemporary Aesthetics of Visual Arts), September 2019, pp. 109-115.

「児玉幸子『眩惑』展 2017――あえて『日本的』と言って見えてくること」、『埼玉大学紀要（教養学部）』、第 53 巻第 2 号、2018 年 3 月、pp. 89-95.

「毒から精神安定剤へ――毒と悪意のない世界は可能か、アートから考える」、『ポワゾン・ルージュ Poison Rouge』、京都大学こころの未来研究センター、2019 年 3 月、42－65 頁。

「オルダス・ハクスリーの挑戦――箱にも入らずカリフォルニアで堂々と」、『ポワゾン・ルージュ 2』、京都大学こころの未来研究センター、2020 年 3 月、49－74 頁。

スクリブナー思想史大辞典翻訳委員会編『スクリブナー思想史大事典』丸善出版（2016 年 1 月刊行）の「視覚文化」「芸術および科学における創造性」「アバンギャルド」「芸術と科学技術の分類（近代初期）」「芸術の中のジェンダー」「遠近法」「シンボリズム：象徴主義」「ヴァーチャルリアリティ：仮想現実」の計 8 項目の翻訳。

『オーバーラップ』、水声社、2023（単著）、『今、絵画について考える』、水声社、2023（共著）

翻　　訳

スクリブナー思想史大辞典翻訳委員会編『スクリブナー思想史大事典』丸善出版（2016 年 1 月刊行）の「視覚文化」「芸術および科学における創造性」「アバンギャルド」「芸術と科学技術の分類（近代初期）」「芸術の中のジェンダー」「遠近法」「シンボリズム：象徴主義」「ヴァーチャルリアリティ：仮想現実」の計 8 項目の翻訳。

学　　位　Ph.D.(Art History), Duke University, USA

金井　勇人　教授

専門分野

日本語学・日本語教育

研究紹介

日本語教育に応用され得る日本語学研究，日本語学に還元され得る日本語教育研究を目指します。

著書・論文

『ビジネス必携 伝わる文章の裏ワザ・表ワザ』経団連出版，2023.07

「「これ」「それ」「あれ」は，どんなふうに使い分けられていますか」国立国語研究所編『日本語の大疑問』pp. 136-143，幻冬舎新書，2021.11

「複数の文のつなげ方」石黒圭編『日本語文章チェック事典』pp.248-267，東京堂出版，2021.10

「作文におけるア系の指示詞についてー《非-共同的共有知識》という観点からー」『日本語教育』179，pp.16-30，日本語教育学会，2021.08

「記憶指示のユ・저についての一考察ー点的記憶指示・線的記憶指示という観点からー」『朝鮮語研究』8，pp.37-56，朝鮮語研究会，2019（共著）

「流れがスムーズになる指示詞の選び方」石黒圭編『わかりやすく書ける作文シラバス』pp.99-118，くろしお出版，2017

『なにげにてごわい日本語』すばる舎，2011（共著）

「なぜ聞き手を指す「そこのＮ」は非丁寧になるのか」『日本語/日本語教育研究』1，pp.139-156，日本語/日本語教育研究会，2010

「聞き手を指す「そちら」と「そこ」について」『日本語教育』134，pp.110-119，日本語教育学会，　2007

「指示語「そちら」「そっち」の相違点についてー人称指示を事例にー」『日本語教育』129，pp.21-30，日本語教育学会，2006

学　　位　　博士（学術）（2012 年，埼玉大学）

川野　靖子　教授

専門分野

日本語学

研究紹介

現代日本語の文法を研究しています。動詞の意味と文法現象の関係に興味を持っており、そうした観点から、格体制の交替現象や格成分の語順、アスペクト、副詞的修飾等について、研究を進めています。

著書・論文

「自動詞文における二種類の代換現象と所有関係―「「N_1ガ　N_2デ～」と「N_1ガ　N_2ニ～」の違いを中心に―」『日本語文法』2 巻 1 号、日本語文法学会、2002 年

「空間表現における格成分の語順」『日本語教育』120 号、日本語教育学会、2004 年

「現代日本語における位置変化構文と状態変化構文の交替現象―格成分の対応の仕方―」『日本語の研究』2 巻 1 号（『国語学』通巻 224 号）、日本語学会、2006 年

「移動動詞と共起するヲ格句とニ格句―結果性と限界性による動詞の分類と格体制の記述―」『ひつじ研究叢書〈言語編〉42 現代日本語文法 現象と理論のインタラクション』ひつじ書房、2006 年

「壁塗り代換を起こす動詞と起こさない動詞―交替の可否を決定する意味階層の存在―」『日本語の研究』5 巻 4 号（『国語学』通巻 239 号）、日本語学会、2009 年

「現代日本語の動詞「詰める」「覆う」の分析―格体制の交替の観点から―」『埼玉大学紀要（教養学部）』48 巻 2 号、2013 年

「壁塗り代換は、なぜヴォイスのカテゴリーに入らないのか」『埼玉大学紀要（教養学部）』51 巻 2 号、2016 年

「「彼には積極性が欠けている」と「彼は積極性に欠けている」―「満ち欠け代換」の成立原理」『埼玉大学紀要

（教養学部）』53 巻 2 号、2018 年

“A critical review of English locative alternation studies: Proposal for distinguishing between alternating and non-alternating verbs” 『埼玉大学紀要（教養学部）』54 巻 2 号、2019 年

『壁塗り代換をはじめとする格体制の交替現象の研究―位置変化と状態変化の類型交替―』ひつじ書房、2021 年

学　　位　　博士（言語学）（2003 年、筑波大学）

キーナー　ヨハネス　准教授

専門分野

人文地理学・都市社会学

研究紹介

日本とヨーロッパをフィールドにして、現代の都市地理について研究しています。特にインナーシティという地域に関心を持っており、ホームレス支援、移民社会、住宅市場、アーティストなどの様々な課題を取り上げながら、レジリエンス、ジェントリフィケーション、サービスハブ、グローバリゼーションなどの理論を進めています。

著書・論文

「ホームレス就労支援がもたらす社会的ネットワークの変容」『ホームレスと社会』7 号、頁 113-118、2012 年

“Social Networks of Homeless People under the Influence of Homeless Self-sufficiency Support Centres in Japan”, *Vienna Journal of East Asian Studies* 5, pp. 77-109, 2014

「場所の磁場を生み出すリノベーション：大阪市北区中崎町界隈の事例から」『市政研究』186 号、54-65 頁、2015 年

「インナーシティにおける外国人向けゲストハウス事業の実態と地域インパクト：大阪市西成区北部を事例に」『人文地理』67 巻 5 号、25‐41 頁、2015 年

“Homelessness and Homeless Policies in the Context of the Residual Japanese Welfare State”, Carole Zuffery & Nilan Yu (eds.) *Faces of Homelessness in the Asia Pacific*. Routledge, pp.9-27, 2017

“Innovations in Gearing the Housing Market to Welfare Benefit Recipients in Osaka’s Inner City: A Resilient Strategy?”, *Housing, Theory and Society* 35 (4), pp.410-431, 2018

「工業都市の衰退とホームレス現象」山口恵子・青木秀男『グローバル化のなかの都市貧困：大都市におけるホームレスの国際比較』ミネルヴァ書房、頁 124-145、2020 年

“The service hub as bypassed social infrastructure: evidence from inner-city Osaka”, *Urban Geography*, online publication, 2020

「ホームレス・アサイラムからハウジング・ファースト　：ウィーン市におけるホームレス政策の発展」キーナーヨハネス・水内俊雄編『分極化する都市におけるサービスハブの変容とイノベーションの力学：ウィーン・大阪から学ぶ』大阪市立大学都市研究プラザ、頁 1-16、2021 年

学　　位　　博士（文学）（2018 年、大阪市立大学）

草野　大希　教授

専攻分野

国際政治学、アメリカ外交、グローバル・ガバナンス論

研究紹介

国際政治学における様々な理論（リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムなど）的観点から、主としてアメリカ外交、とりわけアメリカの介入政策を対象にした実証的な研究を行っています。最近では、戦後のアメリカが主導してきた「リベラル国際秩序」の盛衰に関する研究に注力しています。

著書・論文

Non-Western Nations and the Liberal International Order: Responding to the Backlash in the West (co-edited with Hiro

Katsumata), Routledge, 2023.
『国際関係論入門』（小川裕子・藤田泰昌との共編著）ミネルヴァ書房、2023 年。
『アメリカの介入政策と米州秩序――複雑システムとしての国際政治』東信堂　2011 年。
“Humanitarian Intervention: The Interplay of Norms and Politics” in Michael C. Davis, et al., eds., *International Intervention in the Post-Cold War World: Moral Responsibility and Power Politics* (New York: M. E. Sharpe), pp. 123-141.
「イラク戦争前後における米国主導のリベラル国際秩序の変容」『国際安全保障』52(1)、2024 年、51-69 頁。
「モンロー・ドクトリンとアメリカ外交の二百年―多面的な外交理念の歴史的展開―」『アメリカ太平洋研究』（東京大学大学院総合文化研究科アメリカ太平洋地域研究センター）24 号、2024 年 4 月、9-24 頁。
「人道空間の軍事的拡張ー冷戦後世界における人道主義と軍事主義の相互作用ー」『国際法外交雑誌』 122(1)、2023 年、76-101 頁。
「序論 米外交史におけるトランプ外交の「例外性 ―リベラル国際秩序の動揺の果てに―」『国際安全保障』49(2)、2021 年、1-19 頁。
“Denial of History? Yasukuni Visits as Signaling,” co-authored with Taisuke Fujita, *Journal of East Asian Studies* (Cambridge University Press), July 2020, 20(2), pp. 291-316.
「ウィルソン的リベラル介入主義の再考ー現代のリベラル介入主義におけるウィルソン主義の展開」『国際政治（特集：「ウィルソン主義」の 100 年）』198 号、2020 年 1 月、127-142 頁。
「サルマーン国王即位後の米国の対サウジアラビア外交―オバマとトランプ政権下で動揺する「同盟関係」『中東研究』534 号、2019 年 1 月、26-39 頁。
「オバマ政権の介入政策における『アメリカ例外主義』―不安定な世界におけるアメリカの自画像の再構築」『アメリカ研究（特集：ゆらぐアメリカの自画像）』51 号、2017 年、45-66 頁。
「日米の台頭と地域的国際秩序の連鎖―東アジアと米州における覇権の正当化とモンロー主義―」『国際政治（特集：新興国台頭と国際秩序の変遷）』183 号、2016 年、 31-44 頁。
「モンロー主義とアメリカの介入政策―単独主義と多角主義の淵源となった外交理念のダイナミクス」『アメリカ研究（特集 モンロー・ドクトリン再考)）』49 号、2015 年、41-60 頁。
「アメリカの介入と国際正義―20 世紀初頭の米州における介入の正当性をめぐる社会的相互作用―」『国際政治（特集：正義と国際社会）』171 号、2013 年、15-28 頁。
「グローバル化の進展と民主化の停滞―民主化を導く『パワー』と『アイディア』の変化―」『埼玉大学教養学部紀要』47(1) 、2011 年、55-84 頁。
「K・ウォルツによる複雑な国際政治システムの展開―複雑システムのモデルを判断枠組みとしたウォルツ理論の再考―」『埼玉大学教養学部紀要』46(2)、2010 年、 73-　97 頁。
「書評：Robert Jervis, *System Effects: Complexity in Political and Social Life* (Princeton University Press, 1997)」『コスモポリス』2 号、2008 年、63-67 頁。
「書評：イボ・ダルダー、マイケル・オ・ハンロン共著『邪悪に勝利する--NATO によるコンボ解放戦争』ブルッキングス研究所、2000 年」『国際学論集』47 号、2001 年、 81-89 頁。
「アメリカの軍事介入の変容？―『反共』介入と『人道』介入に見る軍事介入の問題性―」『国際学論集』46 号、2000 年、77-103 頁。

学　　位　　博士（国際関係論）（2007 年、上智大学）

久保　茉莉子　准教授

専門分野

中国近現代史、中国法制史

研究紹介

刑事法分野を中心に、19～20 世紀の中国・台湾における法と裁判の歴史を研究しています。檔案史料や法学専門書、

雑誌、新聞等、各種史料を用いながら、中国における西洋近代的法典および近代法学の成立・変容過程、新たな法律制度の運用状況について分析しています。

著書・論文

『中国の近代的刑事裁判―刑事司法改革からみる中国近代法史』（東京大学出版会、2020 年）

“Past Research and Future IssuesRelated to Modern Chinese Legal History”『東洋文化研究所紀要』178 号（2021 年）、pp. 174-157

「都市建設―『城市化進程研究』（第 9 巻）―」川島真・中村元哉編著『中華民国史研究の動向―中国と日本の中国近代史理解―』（晃陽書房、2019 年）、pp. 253-268

「南京国民政府時期における刑事訴訟法改正と自訴制度」『法制史研究』66 号（2017 年）、pp. 39-87

「南京国民政府時期における刑事上訴制度」『史学雑誌』126 編 9 号（2017 年）、pp. 1-37

「1930 年代前半の中国における検察制度」『歴史学研究』944 号（2016 年）、pp. 1-18

「南京国民政府時期地方法院検察官與司法警察」『2014 両岸三地歴史学研究生研討会論文集』（2015 年）、pp. 15-28

「南京国民政府時期の上海における刑事裁判―ある殺人事件を中心に」『史学雑誌』122 編 12 号（2013 年）、pp. 58-82

「中華民国刑法改正過程における保安処分論議」『東洋学報』93 巻 3 号（2011 年）、pp. 277-305

学　　位　　博士（文学）（東京大学、2017 年）

小杉　亮子　准教授

専門分野

社会学、社会運動論

研究紹介

20 世紀後半の日本の社会運動を対象に、運動の歴史的背景や社会構造的要因、参加者像、運動文化などを、社会運動論の観点から研究しています。とくに 1960 年代に多発・拡大した学生運動に関心を持ち、参加者への聞き取り調査などに基づいて、運動の盛衰の過程やその遺産について分析を行ってきました。

著書・論文

『東大闘争の語り――社会運動の予示と戦略』（新曜社、2018 年）

『問いからはじめる社会運動論』（濱西栄司・中根多惠・鈴木彩加・青木聡子との共著、有斐閣、2020 年）

『越境と連帯――社会運動史研究 4』（大野光明・松井隆志との共編著、新曜社、2022 年）

『メディアがひらく運動史――社会運動史研究 3』（大野光明・松井隆志との共編著、新曜社、2021 年）

『「1968」を編みなおす――社会運動史研究 2』（大野光明・松井隆志との共編著、新曜社、2020 年）

『運動史とは何か――社会運動史研究 1』（大野光明・松井隆志との共編著、新曜社、2019 年）

“The Japanese Student Movement and Its Change in the Long 1960s,”（Adachi Hiroaki, Christopher Craig, Marco Del Bene, and Enrico Fongar eds., *Revolutionary Times: A Comparative View of the Long 1960s in Japan and Italy*, Mimesis International、pp. 69–86、2022 年）

「1960 年代学生運動における新しい組織像と予示的政治の可能性――所美都子の運動論と 1968～69 年東大闘争を中心に」（『大原社会問題研究所雑誌』759 号、4–21 頁、2022 年）

「全共闘運動の傷跡――東大闘争参加者の「その後」から」（坪井秀人編『戦後日本の傷跡』臨川書店 240–251 頁、2021 年）

「民青系学生運動から見た東大闘争――一〇項目確認書に着目して」（『年報日本現代史』26 号、101–136 頁、2021 年）

「問い直される大学の境界――1968～69 年東大闘争」（宇野田尚哉・坪井秀人編『対抗文化史――冷戦期日本の表現と運動』大阪大学出版会、141–157 頁、2021 年）

「〝1968〟の脱政治化と社会運動論における敵対性の分析をめぐって――1968～1969 年東大闘争から考える」（『社

会学研究』104 号、37–61 頁、2020 年）
「東大闘争の戦略・戦術に見る 1960 年代学生運動の軍事化——ジェンダー的観点からの 1960 年代学生運動論との接続をめざして」（『国立歴史民俗博物館研究報告』216 号、153-168 頁、2019 年）
「全共闘とはなんだったのか—東大闘争における参加者の解釈と意味づけに着目して」（『大原社会問題研究所雑誌』697 号、33–48 頁、2016 年）
「グローバル・シックスティーズ論にみる“1968”の社会運動の形成要因」（『AGLOS』Special Edition 2015、2016 年）
など

学　　位　　博士（文学）（2016 年、東北大学）

近藤　久洋　教授

専門分野

国際開発学、開発と政治、ガバナンス、新興ドナー研究

研究紹介

国際開発学のなかでも、「開発と政治」分野を研究しています。特に、政治体制やガバナンスが開発パフォーマンスにどのような影響を及ぼすかに関心を持っています。近年では新興国が援助国（新興ドナー）として台頭することで、国際援助秩序をいかに変容しうるかを集中的に研究しています。

著書・論文

‘Policy Networks in South Korea and Taiwan during the Democratic Era’、2002 年、*Pacific Review*, vol. 15, no. 2, pp. 225–44.
「韓国における政府・財閥関係の循環的変容と金融危機」、2004 年、『国際政治』、日本国際政治学会、第 136 号、47–61 頁。
「韓国と台湾の開発体制：政策ネットワーク・資源・ガバナンス」、2006 年、『国際開発研究フォーラム』、第 32 号、名古屋大学大学院国際開発研究科、1–21 頁。
「韓国の援助政策」、2007 年、『開発金融研究所報』、第 35 号、72–108 頁。
「台湾の援助政策」、2008 年、国際協力銀行、開発金融研究所、1–42 頁＋i。
‘How Do “Emerging” Donors Differ from “Traditional” Donors?—An Institutional Analysis of Foreign Aid in Cambodia—’ 共著（with Sato Jin, Shiga Hiroaki and Kobayashi Takaaki）、2010 年、JICA Working Paper Series, no. 2, pp. 1–45
’Diversity and Transformation of Aid Patterns in Asia’s “Emerging Donors”’、共著（with Kobayashi Takaaki, Shiga Hiroaki and Sato Jin）、2010 年、JICA Working Paper Series, no. 21, pp. i-ii, 1–87
‘“Emerging Donors” from a Recipient Perspective: An Institutional Analysis of Foreign Aid in Cambodia—’、共著（with Sato Jin, Shiga Hiroaki, Kobayashi Takaaki）、2011 年、*World Development*, vol. 39, no. 12, pp. 2091–104
『開発政治学入門—途上国開発戦略におけるガバナンス—』、共著（木村宏恒・近藤久洋・金丸裕志）、2011 年、勁草書房、1–367 頁＋x。
「『新興ドナー』の多様性と起源」、共著（近藤久洋、小林誉明、志裕朗、佐藤仁）、2012 年、『国際開発研究』、第 21 巻、第 1・2 号、89–102 頁
「台湾の対外援助における目的とアプローチ」、2012 年、『アジア経済』、第 53 巻、第 5 号、28–54 頁。
‘Korea’s Pathway from Recipient to Donor: How does Japan matter?’、2012 年、in Jin Sato *et al*. (eds), *The Rise of Asian Donors: Emerging Donors and Japan’s Impact*, Routledge, pp. 133–54.
‘Taiwan’s Foreign Aid: Seeking for Statehood’、2012 年、in Hyo-Sook Kim *et al*. (eds), *Foreign Aid Competition in North-East Asia*, Sterling, VA: Kumarian Press, pp. 81–104.
『開発政治学の展開—途上国開発戦略におけるガバナンス—』、共著（木村宏恒・近藤久洋・金丸裕志）、2013 年、勁草書房、1–380 頁＋xii。
「市民社会論再考—市民社会の有効性を阻害・促進する条件は何か—」、2014 年、『国際開発研究』、第 23 巻、第 1 号、103–16 頁。

’Convergence of Aid Models in Emerging Donors? Learning Processes, Norms and Identities, and Recipients’、2015 年、JICA Working Paper Series, no. 106, pp. 1–58.

「人道主義は普遍的か―新興国と国際人道レジームの未来―」、2017 年、第 97 号、『東洋文化』、東京大学東洋文化研究所、47–74 頁。

‘Stagnation of Integration in Aid Administration in South Africa―Choices between Norms, Interests and Power Balance―’, 2018 年, JICA-RI Working Paper, no. 167, pp. 1–33.

「開発途上国の国家と社会の関係」、2018 年、国際開発学会編、『国際開発学事典』、東京、丸善出版、220–1 頁。

「民主主義は生き残れるか」、2018 年、国際開発学会編、『国際開発学事典』、東京、丸善出版、566–7 頁。

‘Editorial for Special Issue: Amid the Rise of Unilateralism: Reinvennting Multilateral Cooperation and Roles of Northeast Asian Countries to Achieve the SDGs’, 2019 年, *Journal of International Development Studies*, vol. 28, no. 3, pp. 1–4.

‘Unilateralism versus Multilateralism? Emerging Countries and Emerging Multilateralisms’, 2019 年, *Journal of International*
Development Studies, vol. 28, no. 3, pp. 31–47.

学　　位　　Ph.D.（2003 年、University of Leeds）

佐藤　雅浩　准教授

専門分野

歴史社会学、医療社会学、精神医学史、社会問題の構築主義

研究紹介

精神疾患の流行という現象を対象に、その要因を歴史社会学的な視点から研究しています。これまで分析対象としてきたのはマスメディア（主として新聞）における大衆的な医学言説で、言説分析や内容分析、言説史、社会問題の構築といった分野に関連があります。

著書・論文

『精神疾患言説の歴史社会学――「心の病」はなぜ流行するのか』（新曜社、2013 年）

「精神医学とマスメディアの近代」（鈴木晃仁・北中淳子編『精神医学の歴史と人類学』東京大学出版会、104-126 頁、2016 年）

「近代日本における被害者像の転換」（中河伸俊・赤川学編『方法としての構築主義』勁草書房、134-153 頁、2013 年）

「健康と社会保障政策についての態度」（武川正吾・白波瀬佐和子編 『格差社会の福祉と意識』東京大学出版会、97-121 頁、2012 年）

「児童虐待とオカルト」（吉田司雄編『オカルトの惑星――1980 年代、もう一つの世界地図』青弓社、183-207 頁、2009 年）

「『心の病』の戦後史」（芹沢一也編『時代がつくる「狂気」――精神医療と社会』朝日新聞社、173-221 頁、2007 年）

「放射能汚染に対する危機意識の社会的規定要因」（『埼玉大学紀要（教養学部）』、第 53 巻第 2 号、189-206 頁、2018 年）

“Popularization of psychiatric knowledge in modern Japan at the turn of the twentieth century: Focusing on the newspaper coverage of mental disorders,” *Historia Scientiarum* 22(2), pp.110-124, 2012.

「世紀転換期日本における精神医学的知識の通俗化過程」（『年報科学・技術・社会』、第 21 巻、37-68 頁、2012 年）

「戦前期日本における外傷性神経症概念の成立と衰退――1880-1940」（『年報科学・技術・社会』、第 18 巻、1-43 頁、2009 年）

「戦前期日本における精神疾患言説の構図――逸脱と健康の系譜をめぐって」（『ソシオロゴス』、第 32 号、17-

37 頁、2008 年）
「心的外傷概念の普及と流動的近代」（『Sociology Today』、第 16 号、1-16 頁、2007 年）
「『心理学化する社会』の歴史的相対性――大衆化された心理学言説に対する専門家の懐疑論に着目して」（『現代社会理論研究』、第 15 号、383-393 頁、2005 年）
「心理学的疾患言説における精神／身体／外部環境――20 世紀日本の大衆メディア言説を対象として」（『ソシオロゴス』、第 29 号、90-109 頁、2005 年）
「精神障害と社会的補償」（北中淳子・岡島美朗・小俣和一郎との共著、『精神医学史研究』、Vol.14 no.1、 23-25 頁、2010 年）
「『健康の不平等』の現在――主観的健康状態と社会経済的地位の関連」（『SSJ Data Archive Research Paper Series――JGSS から読む日本人の行動と意識』、第 33 号、48-59 頁、2006 年）

学　　位　　博士（社会学）（2011 年、東京大学）

サムレト ソワンルン　教授

専門分野

開発経済学、国際金融

研究紹介　カンボジア経済をはじめ、発展途上国の経済における諸問題に関する研究に取り組んできました。現在は、通貨代替（ドル化）、マイクロファイナンス、カンボジアの農村地域における開発の諸問題や経済発展と制度などについて実証研究を行っています。

著書・論文

“カンボジアにおける新型コロナウイルス感染症の影響と対応” 愛知学院大学経済研究所所報 (2), 160-173 頁, 2022 年（共著者：藤川 清史）.

“Climate Change, Climatic Extremes, and Households’ Food Consumption in Bangladesh: A Longitudinal Data Analysis,” *Environmental Challenges* **7**, 100495, 2022 (Co-authored: Mohammad Saiful Islam, Abu Hayat, Md. Saiful Islam, Masayuki Sato)

“Impact of Interest Rate Cap Policies on the Lending Behavior of Microfinance Institutions: Evidence from Millions of Observations in the Credit Registry Database,” JICA Ogata Research Institute Working Paper No.224, 2021 (Co-authored: Daiju Aiba, Sothearoath Oeur, Vanndy Vat).

“Impacts of the Interest Rate Ceiling on Microfinance Sector in Cambodia: Evidence from a Household Survey,” JICA Ogata Research Institute Working Paper No.219, 2021 (Co-authored: Daiju Aiba, Sothearoath Oeur, Vanndy Vat).

“Oil Bonanza and the Composition of Government Expenditure,” *Economics of Governance* **22**, pp. 23-46, 2021 (Co-authored:Keisuke Okada).

“Dollarization Dilemma: Price Stability at the Cost of External Competitiveness in Cambodia,” World Bank Policy Research Working Paper No. 8893, 2019 (Co-authored: Miguel Eduardo Sánchez-Martín and Sodeth Ly).

“Revisiting the Impacts of Exchange Rate Movement on the Dollarization Process in Cambodia,” *Social Science Rev* (Saitama University) **156**, pp. 119-134, 2019 (Co-authored with Pagna Sok).

“Economic Growth and Dollarization in Cambodia.” *Asian Studies* (*Aziya Kenkyu*), **65**, pp. 61-78, 2019 (Coautored with Hidenobu Okuda).

“The Impact of Institutional Factors on the Performance of Genuine Savings,” *International Journal of Sustainable Development & World Ecology* **25**, pp.56-68, 2018 (Co-authored with Masayuki Sato and Kengo Sasaki).

“Findings from a Preliminary Survey of Poor Households in Rural Cambodia: A Case of a Commune in Prey Veng Province,” *Saitama University Review* (Faculty of Liberal Arts) **53(1)**, pp. 59-70, 2017.

“Corruption and Natural Resource Rents: Evidence from Quantile Regression,”*Applied Economics Letters* **24**, pp.1490-1493, 2017 (Co-authored with Keisuke Okada).

"A Preliminary Survey on the Poor Households in Angkor Sar Commune, Mesang District, Prey Veng Province, Cambodia: Household Information," *Saitama University Review* (Faculty of Liberal Arts) **52(1)**, pp.111-120, 2016.

"An Estimation of the Money Demand Function in Cambodia," *Economics Bulletin* **35**, pp. 2625-2636, 2015.

"Ethnic Diversity, Democracy, and Health: Theory and Evidence," *Research in Economics* **69**, pp. 353-376, 2015 (Co-authored with Go Kotera, Nobuhiro Mizuno and Keisuke Okada).

"How Does Corruption Influence the Effect of Foreign Direct Investment on Economic Growth?," *Global Economic Review* **43**, pp. 207-220, 2014 (Co-authored with Keisuke Okada).

"A Study on the Socio-economic Determinants of Suicide: Evidence from 13 European OECD Countries," *Journal of Socio-Economics* **45**, pp. 75-85, 2013 (Co-authored with Keisuke Okada).

"Government Size, Democracy, and Corruption: An Empirical Investigation," *Economic Modelling* **29**, pp. 2340-2348, 2012 (Co-authored with Go Kotera and Keisuke Okada).

"The Effect of Foreign Aid on Corruption: A Quantile Regression Approach," *Economics Letters* **115**, pp. 240-243, 2012 (Co-authored with Keisuke Okada).

"A Numerical Study on Assessing Sustainable Development with Future Genuine Savings Simulation," *International Journal of Sustainable Development* **15**, pp. 293-312, 2012 (Co-authored with Masayuki Sato and Katsunori Yamada).

"Empirical Study on the Determinants of CO2 Emissions: Evidence from OECD Countries," *Applied Economics* **44**, pp. 3513-3519, 2012 (Co-authored with Hiroki Iwata and Keisuke Okada).

"An Empirical Examination on the Hysteresis of Currency Substitution in Cambodia," *Journal of Asian Economics* **22**, pp. 518-527, 2011.

"A Note on the Environmental Kuznets Curve for CO2: A Pooled Mean Group Approach," *Applied Energy* **88**, pp. 1986-1996,
2011 (Co-authored with Hiroki Iwata and Keisuke Okada).

"Empirical Study on the Environmental Kuznets Curve for CO2 in France: The Role of Nuclear Energy," *Energy Policy* **38**, pp. 4057-4063, 2010 (Co-authored with Hiroki Iwata and Keisuke Okada).

"Currency Substitution and Seigniorage-Maximizing Inflation: The Case of Cambodia," *Applied Economics* **42**, pp. 1907-1916, 2010.

"A Note on Short-Run and Long-Run Relationships between Parallel and Official Exchange Rates: The Case of Cambodia," *Economics Bulletin* **30**, pp. 1044-1053, 2010.

"The Monetary Model of Exchange Rate: Evidence from the Philippines Using ARDL Approach," *Economics Bulletin* **6**, pp. 1-13, 2008 (Co-authored with Dara Long).

学　　位　　博士（経済学）（2009 年、京都大学）

ザラパップ　ジリア　准教授

専門分野

メディア学、美術史

研究紹介

伝統的なアートの思想や概念が現代のメディアにどのように影響し、どのように応用されているのかということを研究しています。西洋美術史から分かれて発展したアートは、領域としてはアジア太平洋地域に集中して見られますが、ヨーロッパやアメリカなどのアートとも比較し、グローバルな視点や立場から研究しています。日本の美術史と現代アート、現代メディアの関係を比較する研究では、日本の妖怪画と現代メディア（映画、アニメ、マンガ、ゲームなど）に描かれる妖怪画について研究しました。また、オーストラリア、アジア、オセアニアの現代アートも研究しています。オセアニアのアートに含まれている儀式、道具、動物の生態などの文化的な意味や考え方が現代社会のダンスやスポーツ、パフォーマンスにこのような文化的な意味や考え方がどう影響したのかも研究中です。

著書・論文

Post-War Myths in Japanese Visual Media. (In Hungarian). Culture and Community (Journal of Cultural Theory), vol.2, nr.4, pp.21-36, Budapest. 2011

Women and Sports: Interdisciplinary Perspectives. Sport in History (Journal of Sport Theory). Vol.31, nr.4, Pp.520-523, Routledge, 2011

Traditional Monster Imagery in Anime, Manga and Japanese Cinema (Global Oriental/Brill, 2011)

Anime and its Roots in Early Japanese Monster Art (Global Oriental/Brill, 2010)

Transformation as Monstrosity - Monster Representations as Mirrors of Anxiety in Traditional and Contemporary Japanese Visual Media. Pp. 51-80. Chapter. In Body as Object. Research Monograph Series Nr.13 (Centre for International Japan Studies eds., Hosei University, 2010)

Monsters at War. The Great Yôkai Wars 1968-2005. Chapter. In In Mechademia Vol. 4: *War/Time*, University
of Minnesota Press, Fall 2009

Monsters Reappearing in Great Yôkai Wars 1968-2005. Chapter. In In Marmysz, John; Lukas, Scott (eds.): *Fear, Cultural Anxiety and Transformation: Horror, Science Fiction and Fantasy Films Remade*. Lexington Books, Lanham, MD, 2008

Made in Australia, Big In Japan. Article. The Sydney Morning Herald, 07.06.2006)

Little Yen for Australian Art Works. Article. The Age, Melbourne, 29.05.2006)

学　　位　　博士（Media and Communication Studies）（2008, The University of New South Wales）

杉浦　晋　教授

専門分野

日本近現代文学

研究紹介

おもに昭和時代の小説と批評の研究。石川淳への関心を起点として、関連する諸文学者の営為をも派生的に研究しつつ、現在に至っています。

著書・論文

「一九四七年の革命、アレゴリー、アイロニー――石川淳、林達夫から大西巨人、吉本隆明へ――」（『埼玉大学紀要（教養学部）』54-1、2018 年）

「吉田健一『東京の昔』をめぐって――「水」、「金沢」、そしてジャクソン・ポロック――」（『埼玉大学紀要（教養学部）』54-2、2019 年）

「石川淳「山桜」をめぐって――ネルヴァルから秋成へ、あるいはロマン主義の克服――」（『埼玉大学紀要（教養学部）』55-2、2020 年）

「偽書というフェイク――芥川龍之介、谷崎潤一郎、そして石川淳――」（『埼玉大学紀要（教養学部）』57-2、2022 年）

「太宰治「魚服記」一面――完遂された心中の物語――」（『埼玉大学紀要（教養学部）』59-2、2024 年）

鮮于　媚　准教授

専門分野

日本語学・音声学・日本語教育

研究紹介

第二言語としての日本語を中心とした音声の特徴について研究をしています。主に、日本語学の理論に基づいた実証実験を行っています。人間の聴覚的な特徴を反映した日本語の知覚学習や多言語を背景とした日本語学習者に対する学習支援について研究を行っています。知覚と生成の関係からみた言語学習のメカニズムについても研究を進

めています。日本語と他の言語との音声的特徴の比較し、時間長やリズムの特性について階層的に分析を試みています。音声の多様性および感情表現との関連性についてデータに基づいた研究を行っています。

著書・論文

「L2 speech timing analysis based on L1 timing characteristics」 『異文化コミュニケーション視点からみる日本学研究』pp. 286−293 浙江工商大学出版社（共著：张琰龙，加藤宏明，匂坂芳典）.

「知覚学習システムを利用した促音の聴取訓練による学習効果の検証 −長短母音の位置およびピッチパターン，促音の後続子音種を中心に−」『日語日文学』 第 51 号， pp. 37–52，大韓日語日文学会.

「日本語の長短母音の聴取訓練と学習効果の検証 −文脈要素が与える影響を中心に−」『日語日文学』 第 52 号，pp. 87–104，大韓日語日文学会.

“Non-native perception and learning of phonemic length contrast in spoken Japanese: Training Korean listeners with geminate and singleton words”, *Journal of East Asian linguistics*, vol. 22, pp. 373–398, Springer.

“Sound change of /o/ in modern Seoul Korean: Focused on relations with acoustic characteristics and perception”, *Phonetics and Speech Sciences*, vol. 6, issue 3, pp. 109–119, The Korean Society of Speech Sciences.

「中国人日本語学習者による促音時間制御特性の分析」『中日言語対照研究論叢』第 8 号, pp. 280–295，中日言語対比研究会.

「知覚特徴量に基づく日本語学習者の促音聴取難易度推定」『連語論研究』第 41 号, pp. 59–68，国際連語論学会.

「シャドーイングプログラムを用いた発音練習方法の検討－シャドーイング時の発話およびアンケート調査の分析から－」『埼玉大学日本語教育センター紀要』第 13 号, pp. 13−25．埼玉大学日本語教育センター.

「Web 教材を利用した自律学習を促す発音授業－Praat、OJAD、つたえるはつおんの使用を事例に－」『埼玉大学日本語教育センター紀要』 第 14 号, pp. 25−33．埼玉大学日本語教育センター

「人格の入れ替わりを扱ったアニメで使用される人称代名詞はどのように「翻訳」されるのか－『君の名は。』の外国語版字幕を事例として－」『ことばと文字』第 12 号, pp. 122−134，日本のローマ字社（くろしお出版）.

「初級日本語クラスの遠隔授業の実践報告－オンライン口頭練習の一試行－」

『埼玉大学日本語教育センター紀要』第 15 号、pp. 31－37.　埼玉大学日本語教育センター

「日本語学習者の言語学習ストラテジーと音声評価の分析－上級レベルの中国語母語話者を対象に－」『さいたま言語研究』第 7 号，pp. 51－63，さいたま言語研究会（共著：馬若君）

「中国人日本語学習者を対象とした撥音の知覚と生成分析－日本に在住している年少者中国語母語話者を対象に－」『さいたま言語研究』第 7 号 pp. 34－50，さいたま言語研究会（共著：杜赫）

学　　位　　博士（国際情報通信学）（2012 年、早稲田大学）

高橋　克也　教授

専門分野

哲学・西洋思想史・認識論・倫理学

研究紹介

カントを中心に西洋近代哲学を研究してきました。思考の論理性、認識の方法、宗教と科学、などがこれまで主に関心を持ってきたテーマですが、現在は今までの研究を基礎にしながら、構造主義の新しい可能性、ヨーロッパ文化史からみたヨーロッパ哲学といった視点で研究範囲を広げつつあるところです。東洋思想との比較も可能なかぎり試みてゆくつもりです。

著書・論文

『哲学への誘いⅢ　社会の中の哲学』（共編著、東信堂、2010 年）

La nature de l'a priori – Kant et la théorie de la connaissance aujourd'hui (博士論文、2019 年、https://archive-ouverte.unige.ch/)

「カントの「X」とヘリゲルの「それ」」（『理想　特集　ドイツ近世哲学　―私たちにとってのドイツ観念論―』、理想社、2018 年）

「三項関係の力　－ひとつの構造主義的エッセー―」（『仁科弘之教授退職記念論文集　言語をめぐる x 章』、埼玉大学教養学部リベラルアーツ叢書別冊 2、2017 年）
« Les fondements méthodologiques de la mesure de temps »（『埼玉大学紀要』（教養学部）第 51 巻第 2 号、2016 年）
「デッサンの認識論にむけて」（哲学会編『哲学雑誌』、有斐閣、2010 年）
「相対性としての客観性―幾何学・物理学の変革以後のカント主義―」（御子柴善之・檜垣良成編『現代カント研究 10　理性への問い』、晃洋書房、2006 年）
「カントと現代思想―合理性の再評価に向けて－」、『カント全集別巻　カント哲学案内』、岩波書店、2006 年）
「行為主体であることの不自由」（『別冊　情況』、情況出版、2004 年）
「均衡としてのア・プリオリな真理―カントとピアジェ」（『埼玉大学紀要』（教養学部）、第 37 巻第 2 号、2001 年）
「運命というアポリアー人間形成における意志の自由」（東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室『論集』15、1997 年）
学　　位　　博士（文学）（2019 年、ジュネーブ大学）

舘野　文昭　准教授

専門分野

日本古典文学・和歌文学

研究紹介

中世を中心とする日本古典文学、特に歌学の史的展開について研究しています。和歌は前近代の日本文化において中心的な位置を占める文芸でした。そのため、和歌をめぐって様々な学的な営みがなされてきました。その営みの実相について、現代に残された文献資料を手掛かりとして明らかにしたいと考えています。

著書・論文

『中世「歌学知」の史的展開』（花鳥社、2021 年）
『俊頼髄脳全注釈』（共著、勉誠出版、2023 年）
「十月の比の菊　――『古今著聞集』「草木」部第六六三話試論」（『国文学研究資料館紀要　文学研究篇』48、2022 年）
「身分と表現の問題をめぐる中世歌学史　――歌学書・歌合判詞の言説から」（『和歌文学研究』120、2020 年）
『愚秘抄』諸本研究の諸問題――現状と課題をめぐって――」（『国文学研究資料館紀要　文学研究篇』46、2020 年）
「「わがひのもと」という詞 ： 金源三和歌説話を起点として室町期の歌学知を探る」（『国語国文』88－4、2019 年）
「『古今持為注』の真偽をめぐって」（『国文学研究資料館紀要　文学研究篇』45、2019 年）
「和歌史において武士の時代はどう位置づけられるか」（松田浩他編『古典文学の常識を疑う』、勉誠出版、2017 年）
「「誤読」された逸話 ： 『古今著聞集』巻第十六・興言利口第廿五「蔵人判官範貞内覧の大臣頼長を見知らざる事」の考察」（『三田国文』56、2012 年）
学　　位　　博士（文学）（2017 年、慶應義塾大学）

辻　絵理子　准教授

専門分野

美術史学・西洋中世美術・ビザンティン美術・キリスト教図像学

研究紹介

ビザンティン美術、西洋中世美術の研究。特に 11 世紀頃の写本挿絵を中心に論文を書いており、イメージとテク

ストの関係に興味を持っています。最近は複雑な壁面を持つ聖堂装飾のプログラムについても考えています。

著書・論文

『ビザンティン余白詩篇写本挿絵研究』中央公論美術出版、2018 年。

「中期ビザンティン詩篇写本における『悔悛のペテロ』」『美術史研究』第 45 冊、2007 年、21-40 頁。

「ストゥディオス修道院工房における『キリスト三態』」『地中海研究所紀要』第 6 号、2008 年、89-98 頁。

「死を呑む鳥―カラドリオスと落語『死神』の淵源」『地中海研究所紀要』第 8 号、2010 年、1-10 頁。

「『ブリストル詩篇』の《苦難の穴》―「逐語的」挿絵の有する機能」『比較文学年誌』第 64 号、2010 年、136-150 頁。

「ストゥディオス修道院写本工房のペリカン図像」『美術史』第 171 冊、2011 年、1-15 頁。

「神の足が立つところ―磔刑図像に描かれた礼拝者たちとその時間構造」『ヨーロッパ中世の時間意識』知泉書館、2012 年、287-308 頁。

「オリーブ山というトポス―詩篇写本に描かれた使徒言行録サイクル」『エクフラシス』第 3 号、2013 年、16-29 頁。

"Peter's Repentance in the Theodore Psalter," *Patrimonium* 6 (2013), pp. 79-88.

「ユダの銀貨と慈悲の施し―詩篇第 40 篇の図像選択と改変」『Waseda Rilas Journal』第 2 号、2014 年、99-104 頁。

「陽の昇るところから沈むところまで―ビザンティン余白詩篇第 49（50）篇の重層的構造」『パトリスティカ』第 18 号、2015 年、63-83 頁。

「ミルティン妃シモニスと『復活』に立ち会う二人の女―聖ニコラオス・オルファノス聖堂」『ヨーロッパ中世美術論集 4　聖堂の小宇宙』竹林舎、2016 年、376-401 頁。

「余白挿絵と本文の重層的な構造―ビザンティン詩篇写本」『ヨーロッパ中世美術論集 4　聖堂の小宇宙』竹林舎、2016 年、252-272 頁。

「『昇天』を仰ぐキリスト―余白詩篇写本とマケドニア、プリレプの聖ニコラ聖堂」『ヨーロッパ中世美術論集 4 聖堂の小宇宙』竹林舎、2016 年、337-350 頁。

「『トラディティオ・レギス』図と Cod. Vat. gr. 342 のヘッドピース―『法の授与』の予型論的解釈とリヴァイヴァル」『ヨーロッパ文化の再生と革新』知泉書館、2016 年、334-351 頁。

「アギオス・ニコラオス・オルファノス聖堂（テサロニキ）の献堂者同定の試み」『Waseda Rilas Journal』第 4 号、2016 年、85-97 頁。

「ビザンティン聖堂装飾における聖餐の表象―トカル新聖堂（カッパドキア）北小祭室周辺プログラム」『美學』第 249 号、2016 年、25-36 頁。

「昇天に関する覚書」『美術史研究』第 57 冊、2019 年、143-149 頁。

「ビザンティン詩篇写本挿絵におけるダヴィデの表象―Cod. Vat. gr. 1927 のキリスト伝図像を中心に」『鹿島美術研究』（年報第 35 号別冊）、2018 年、1-7 頁。

「ヴァティカン図書館所蔵ギリシア語写本 1927 番　第 1～2 葉に関する記述」、『埼玉大学紀要（教養学部）』第 56 巻第 2 号、2020 年、97-103 頁。

学　　位　　博士（文学）（2012 年、早稲田大学）

冨田　晃正　准教授

専門分野

国際政治経済論，アメリカ通商政策，日米関係

研究紹介

現在国際社会において喫緊の課題となっているポピュリズムや保護主義、反移民政策といったグローバリゼーションが引き起こす諸問題をアメリカを中心に、社会集団や制度に着目するといった政治経済学的なアプローチを用いて研究しています。その他にも、企業形態の違いが政治的影響力の差異に及ぼす影響など、政治経済学に経営学の

観点を持ち込むことにも興味があります。

著書・論文

Terumasa Tomita. 2024 “Resistance and Adaptation to Globalization,” International Relations of Asia-Pacific, (18 June 2024).

Hiroki Kusano, Hiro Katumata, Terumasa Tomita. 2023 “Backlash in the West,” Non-Western Nations and the Liberal International Order,” Routledge. 担当範囲：pp. 15-32.

Masafumi Fujita, Terumasa Tomita. 2023 “Money Isn't Everything: The Impact of Ideology on Congressional Trade Policy-Making ,” Pacific and American Studies(22), pp. 69-91.

冨田晃正. 2023「国際貿易」『国際関係論入門』ミネルヴァ書房，担当範囲：196-219頁。

冨田晃正. 2022『いまアメリカの通商政策に何が起こっているのか？』ミネルヴァ書房、担当範囲：1-304 頁。

冨田晃正. 2021「トランプ大統領を巡る労組の分断」『アメリカ研究』54号(2), 141-166頁。

冨田晃正. 2021「米国通商史におけるトランプ政権の逸脱と連続性」『国際安全保障』49 号(2), 19-40 頁。

大矢根聡，冨田晃正. 2016「日米関係」『FTA・TPPの政治学』有斐閣，担当範囲：199-224頁。

冨田晃正. 2016「米国通商政策における利益集団と制度の交錯」『国際政治』184号，74-88頁。

冨田晃正. 2011「アメリカ通商政策における労働組合の存在感」『レヴァイアサン』49号，110-131頁。

冨田晃正. 2010「経済グローバル化によるアメリカ労働組合AFL-CIOへの影響」『アメリカ太平洋研究』10号，96- 115頁。

冨田晃正. 2009「経済グローバル化による社会集団の選好への作用」『国際政治』156号，152-167頁。

学　　位　　博士（学術）（2014 年、東京大学）

中村　大介　教授

専門分野

東アジア考古学

研究紹介

日本列島における弥生文化形成の意義を、習俗の変化という視点から研究してきました。また、それに関連して、主に殷代から漢代の中国と、それに併行する周辺社会の交流史について研究しています。現在は、いわゆる「東夷」世界が、どのように形成されてきたのかについて考察を進めています。

著書・論文

「方形周溝墓の成立と東アジアの墓制」（『朝鮮古代研究』第 5 号、2004 年）

「無文土器時代前期における石鏃の変遷」（『待兼山考古学論集』、2005 年）

「弥生時代開始期における副葬習俗の受容」（『日本考古学』第 21 号、2006 年）

「遼寧式銅剣の系統的展開と起源」（『中国考古学』第 7 号、2007 年）

「方形周溝墓の系譜とその社会」（『墓制から弥生社会を考える』、六一書房、2007 年）

「東北アジアにおける支石墓の成立と伝播」（『中國史研究』第 52 輯、2008 年）

「青銅器時代と初期鉄器時代の編年と年代」（『韓國考古學報』第 68 輯、2008 年）

「粘土帯土器文化と原三国文化の土器副葬変化及び国際関係」（『湖西考古學』第 21 号、2009 年）

「粘土帯土器文化期から原三国時代の社会と副葬習俗の変化」（『考古学研究』57-1、2010 年）

The Diversity of Mortuary Practice Acceptance at the Beginning of Yayoi Period, Archaeology of Co- existence in East Asia, World Archaeological Congress(WAC) One World Archaeology Series, 2011

「東北アジア青銅器・初期鉄器時代の首長墓副葬品の展開」(『韓国上古史学報』75 号、2012 年）

『弥生文化形成と東アジア社会』(塙書房、2012 年）

「燕鉄器の東方展開」(『埼玉大学紀要 教養学部』第 48 第 1 号、2012 年）

「朝鮮半島の玉文化研究の展望」(『玉文化』10 号、2013 年）

学　　位　　博士（文学）（2007 年、大阪大学）

長沢　誠　准教授

専門分野

高等教育論、比較教育学、大学国際化

研究紹介

教育システムの在り方、特に高等教育システム「大学とは何か」を歴史と国際比較の視点から研究することに興味があります。人口動態や世界情勢の変化、科学技術・経済の発展過程において、大学の果たす（べき）社会的機能の変容に関する研究に取り組んでいます。

著書・論文

「コロナ禍と「アメリカモデル」」福留東土編『パンデミックとアメリカの大学』（東信堂）、2024 年予定

「Achieving High Quality Online Programs in a Shifting Higher Education Landscape」（共著）『The Future of Digital Higher Education: A Post-Pandemic Perspective』（Charlotte, NC：IAP Publication）2024 年予定

「コロナ禍にある「アメリカモデル」の構造的問題」アメリカ教育学会編『アメリカ教育研究 34』（東信堂）、2023 年

「地方国立大学の国際化～グローバル人材育成推進事業の経験から」学校広報ソーシャルメディア活用勉強会編『これから教育の話をしよう８』（Next Publishing）、2023 年

「Inclusive Higher Education and the Non-University Sector: A Comparative View of U.S Community Colleges and Japanese Junior Colleges.」『埼玉大学紀要（教養学部）』第 57 巻（第 2 号）、2022 年

「COVID-19 によるアメリカの大学への影響：大学の価値・経済・国際化・キャンパスライフ」『東京大学教育学研究科紀要』第 61 巻、2022 年

「COVID-19 がアメリカの大学にもたらした影響―2020 年上半期の報告」『東京大学教育学研究科紀要』第 60 巻, 2020 年

「大学ランキングと進学動向：女子の高等教育参加に関する統計分析」『埼玉大学紀要（教養学部）』第 53 巻（第 2 号）、2018 年

Economic Impact of Public Higher Education System: A Case Study of the State University of New York.」『埼玉大学紀要（教養学部）』第 52 巻（第 1 号）、2016 年

学　　位　MS（Education）（2002, University of Southern California, USA）

西山　尚志　准教授

専門分野

中国古代思想史・中国出土文献研究・近現代東アジア学術史

研究紹介

近年中国では先秦から前漢ごろまでの竹簡・木簡・帛書などの文献が大量に発見されているが、このような出土文献を解読して当時の思想史や文献形成史などを研究している。また、最近は近現代における東アジアの学者が出土文献などを用いてどのように古代の歴史や思想を研究しようとしていたのかという問題についても関心を持っている。

著書・論文

「“疑古”与“釈古”的前哨戦――从白鳥庫吉与林泰輔的争論再探“釈古”的本質性問題」（『現代哲学』2020 年第 6 期、広東哲学学会、2020 年 11 月）

「被創造的“三監之亂”的記憶――以與周公旦的關係為中心」（『동양고전연구（東洋古典研究）』第 75 輯、동양고전학회（東洋古典学会）、2019 年 6 月）

「王国維“二重証拠法”的形成与日本学者」（『第九届中日学者中国古代史論壇』、北京社会科学院・東方学会編、河南大学出版社、2018 年 5 月）

「疑古と釋古」（『中国史学の方法論』、第八回日中学者中国古代史論壇論文集、中国社会科学院歴史研究所・東

方学会編、汲古書院、2017 年 5 月）
「我們応該如何運用出土文献？――王国維“二重証拠法”的不可証偽性」（『文史哲』2016 年第 4 期、2016 年 7 月）
「汪晫『子思子全書』の文献的特徴」（『東洋文化』第 103 号、無窮会、2016 年 3 月）
「秦焚書観の変遷」（『日本中国学会報』第六十六集、日本中国学会、2014 年 10 月）
「「老子上経」・「老子下経」的成立」（『齊魯文化研究』第 13 輯、山東師範大学齊魯文化研究中心、泰山出版社、2013 年 12 月）
「上博楚簡『鄭子家喪』に見える歴史改編」（『中国出土資料研究』15 号、日本中国出土資料学会、2011 年 3 月）
「上博楚簡《鬼神之明》的所属学派問題――以鬼神的“賞善罰暴”論為出発点」（『簡帛研究二〇〇七』、広西師範大学出版社、2010 年 4 月）
「『子思子』と『禮記』四篇の関係―楚簡本『緇衣』を出発点として―」（『出土文献と秦楚文化』第五号、上海博楚簡研究会編、日本女子大学文学部、2010 年 3 月）
「従帛書《周易》“小”“少”的区分釈“亨小利”」（『周易研究』2008 年第 3 期、2008 年 6 月）
「『禮記』孔子閒居篇の成立について」（『中国出土資料研究』12 号、日本中国出土資料学会、2008 年 3 月）
「『周易』中の「亨」について」（『人文科学』第 11 号、大東文化大学人文科学研究所、2006 年 3 月）
学　　位　　博士（文学）（2009 年、山東大学）

東　智美　准教授

専門分野

国際協力論、開発社会学、東南アジア地域研究

研究紹介

東南アジア（特にラオスとタイ）の農村部をフィールドに、開発政策や開発事業が小規模農民の暮らしや土地・資源利用に与える影響、地域の資源利用における住民組織の役割、労働移動をめぐるジェンダー課題について研究しています。

著書・論文

「水資源管理の主体としての住民組織と地域社会の変容 タイ北部のムアン・ファーイ水利組合の変遷の二十年」、埼玉大学紀要（教養学部）、59 号 2 巻、75-91 頁、2024 年.（共著者：東智美・保屋野初子）
「『利水者の主体化』課題に対する参加型水管理の可能性 ―北タイの大規模灌漑事業における PIM 導入と改革の事例研究―」（研究ノート）、水資源・環境研究、 36 巻 1 号、54-65 頁、2023 年.（共著者：保屋野初子・東智美）
「東南アジアの市民社会が直面する人権問題に日本はどう向き合うか?――ラオスの政治的強制失踪とミャンマー国軍 の民主化運動弾圧の事例から」（論説）、共生科学、14 巻、19-27 頁、2023 年.
「対ラオス援助――『東南アジアのバッテリー』のゆくえ」、重田康博・太田和宏・福島浩治・藤田和子編、『日本の国際協力 アジア編――経済成長から「持続可能な社会」の実現へ』、ミネルヴァ書房、84-95 頁、2021 年.（共著者：東智美・木口由香・林明仁）
「地域研究のアプローチ――図書館とフィールドの間で」、児玉谷史朗・佐藤章・嶋田晴行編著、『地域研究へのアプローチ ： グローバル・サウスから読み解く世界情勢』、ミネルヴァ書房、19-33 頁、2021 年.（共著者：森口岳・東智美）
「貧困削減の機会か？土地収奪か：ラオス北部の中国企業のバナナ栽培が小規模農民の暮らしに与える影響」、児玉谷史朗・佐藤章・嶋田晴行編著、『地域研究へのアプローチ ： グローバル・サウスから読み解く世界情勢』、ミネルヴァ書房、71-85 頁、2021 年.
『ラオス焼畑民の暮らしと土地政策：「森」と「農地」は分けられるのか』、風響社、2016 年.
“Broken Pillars: The Failure of the Nakai Plateau Livelihood”. Shoemaker, B. and W. Robichaud

(eds.). *Dead in the Water: Global Lessons from the World Bank's Model Hydropower Project in Laos*. University of Wisconsin Press, pp.106-140, 2018. (Co-authored: Hunt, Glenn., M. Samuelson, and S. Higashi)

"An Alternative Approach to Land and Forest Management in Northern Lao PDR." Erni, C. (ed.). *Shifting Cultivation Livelihood and Food Security: New and Old Challenges for Indigenous Peoples in Asia*. The Food and Agriculture Organization of the United Nation, International Work Group For Indigenous Affairs and Asia Indigenous Peoples Pact, pp.253-290, 2015.

「資源管理政策が引き起こす資源の破壊―ラオスの土地・森林管理政策が焼畑民の土地利用に与えた影響―」、博士論文（一橋大学）、2014 年.

学　　位　　博士（社会学）（2014 年、一橋大学）

ビュールク　トーヴェ　教授

専門分野

日本近世文学

研究紹介

近世中期の江戸歌舞伎の環境と演劇演出について主に当時の日記資料をもとに研究を行っている。歌舞伎は商業演劇なので、劇場の経営の仕組みや集客の作戦、また劇場をまつわる商業圏が舞台で演じられる作品に影響を与え、その影響関係について明らかにする。

著書・論文

「二世市川団十郎の交流圏ノート―日記抄をめぐって―」『立教大学大学院日本文学論叢』第 8 号 (152-163), 2008 年

「二世団十郎と歌舞伎における喫煙の演出」『立教大学日本文学』第 105 号（70-82）2010 年

「二世団十郎の養生意識と演出―『日記抄』ノート（二）―」『立教大学日本学研究所年報』第 12 号（102-113）2011 年 3 月

「〈助六〉をめぐる江戸中期の煙草文化と歌舞伎における「型」の発展」『書物としての可能性―日本文学がカタチになるまで』（181-194）2011 年

「二代目市川団十郎と劇場経営―享保十九年の江戸歌舞伎」『立教大学日本文学』第 109 号（104-117）2013 年

"The economic structure of the Edo Kabuki theaters - Ichikawa Danjûrô II as a Kyôhô-time manager", *Japonica Humboldtiana* Vol 16（2013）, pp 5-45

「二代目団十郎と江戸の開帳興行―不動明王を中心に―」『大衆文化』第 9 号（30-45）2013 年

「二代目市川団十郎の宣伝活動―もぐさ売り初演やせりふ正本を中心にして」『歌舞伎―研究と批評』第 52 号（50-70）2014 年

"Edo Kabuki and Money"　*Andon*Vol 96（2014）, pp. 65-80

「江戸中期歌舞伎の桟敷客一考」『演劇研究会 会報』第 42 号（1-15）2016 年

「二代目市川団十郎日記詳解―享保十八年十二月～十九年一月」『埼玉大学紀要（教養学部）』第 52 巻第 2 号（59～70）2017 年

「二代目市川団十郎日記詳解―享保十九年二月」『埼玉大学紀要（教養学部）』第 53 巻第 1 号（74～85）2017 年

「二代目市川団十郎日記詳解−享保十九年三月」『埼玉大学紀要（教養学部）』第 53 巻（第 2 号）（11-28）2018 年

"Profits and Puppet Theatre: Economics Beyond the Permanent Stages", *The Journal of the Oriental Society of Australia* Vol. 51 (2019), pp 142-156.

『二代目市川團十郎の日記にみる享保期江戸歌舞伎』（文学通信、2019 年 2 月）

"The Ejima-Ikushima Scandal" *Theatre Scandals*, Leiden: Brill Publishing House (2020), pp121-145.「二代目市川団十郎日記詳解第四回−享保十九年四月三日～五月五日」『埼玉大学紀要（教養学部）』第 56 巻第 1 号（125-139）2020 年

“Dragon King in a contentious sea: Sino-Japanese Intercultural theatre in 1989, Josh Stenberg 共作、”International Journal of Asian Studies”(2021), pp 1-17.

「江戸中期の歌舞伎役者と人形浄瑠璃演者の出演料」『書くこと・書かれたもの― 表現行為と表現―』埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書 12（37-48）2021 年

「人間乱歩―歌舞伎」『江戸川乱歩事典』（勉誠出版、2021 年 3 月）

学　　位　　博士（文学）（立教大学）

三浦　敦　教授

専門分野

社会人類学、農村開発研究

研究紹介

調査対象地は日本、フランス、フィリピン、セネガルです。主たる研究テーマは、村落社会の政治経済課程と農村の貧困改善の可能性の解明で、特に農業経営戦略、農村開発、協同組合、土地所有権と土地システムですが、これらの問題にかかわりを持つ言語過程、社会運動の形成、カトリックやイスラームなどの宗教の問題、持続可能な開発、社会開発や開発援助の可能性などについても研究しています。

著書・論文

「パパ・マクシムの葬儀：葬送のミサに見られる人格概念の語用論的分析」『民族学研究』66(1): 441-469, 2001.

「環境資源と社会形成：フランス・ジュラ農村地域における自然環境と所有の政治経済プロセス」（『民族学研究』66(1): 1-25, 2001.

「NGO への人類学的アプローチ：新たな現代の市民社会論にむけて」『文化人類学研究』2: 1-22, 2001.

「フランス・ジュラの家族制農業における農家の意思決定」『村落社会研究』11(2): 7-18, 2005.

「現代社会のアソシエーション的ユートピア：フランスとフィリピンにおける協同組合の社会的位置」『文化人類学』71(1): 7-18, 2006.

“Poverty and Phenomenology of Rights in Southeast Asia: Justice and Development in the Philippines,” Asian Rural Sociology Association (ed.) *Asian Rural Sociology IV: the Multidimensionality of Economy, Energy and Environmental Crises*
and their Implications for Rural Livelihoods, vol.1, Laguna: College of Agriculture University of the Philippines Los Baños, p. 154-164, 2010.

「現代市場社会における非私的所有の効率性と社会的機能：フランスとフィリピンにおける多重レイヤーシステムの法と経済学」『社会人類学年報』38: 33-56, 2012.

“Sociability and Associations in Rural French Jura: Justice, Property Rights, and Moral Economy,” Akiko Mori (ed.), *The Anthropology of Europe as Seen from Japan: Considering Contemporary Forms and Meanings of the Social [Senri Ethnological Studies no. 81]*, p. 67-96, 2013.

「セネガルの土地改革：経済自由化の中で残存する慣習的土地制度」『アジア経済』57(1): 34-62, 2016.

« Les idées proudhoniennes comme une « ethno-sociologie » : économie rurale en Franche-Comté et ailleurs », G. Ferréol et al. (dirs.), *Le monde rural : entre permanences et mutations*, Louvain-la-Neuve : EME éditions, p. 85-99, 2016.

「市民社会と協同組合:フィリピンとセネガルの農村アソシエーション」信田敏宏他編『グローバル支援の人類学』昭和堂, p. 79-101, 2017.

« Dynamisme des systèmes fonciers imbriqués aux Philippines, depuis le 16e siècle », P. Luna (dir.), *Prédateurs et résistants : appropriation et réappropriation de la terre et des ressources naturelles (16e-20e siècle)*, Paris : Syllepse, p. 45-68, 2017.

« Gestion coutumière de la production maraîchère face au marché globalisant au Sénégal », J. Stoessel-Ritz, et al. (dirs.), *Penser les innovations sociales dans le développement durable, de la guerre à la paix*, Paris : L’Harmattan, p. 185-199, 2018.

「持続可能性と社会の構築：ハイブリッドな現実の社会過程の多元的な分析の必要性」前川啓治他編『ワードマップ 21 世紀の文化人類学:世界の新しい捉え方』新曜社, p. 261-318, 2018.

「アントロポロジー・アン・ジュー：『文化人類学研究』と学術雑誌の神話的世界」（『文化人類学研究』20: 2-27, 2019.

« Des vidéos YouTube à Instagram. Le corps des jeunes à l'ère du numérique, engagement et re-présentations », *Revue STAPS*, 129 : 5-8, (avec Fabienne Duteil-Ogata et André Suchet), 2020.

« Corps, théâtralité et communication : les photos numériques postées sur les réseaux sociaux par les jeunes étudiants japonais en voyage humanitaire au Cambodge », *Revue STAPS*, 129 : 45-60, 2020.

« Le corps et l'esprit dans les mouvements spirituels californiens et Internet aux États-Unis (années 1960 et années 2010) », *Revue STAPS*, 129 : 73-85, (avec Kohei Kogiso), 2020.

「現代市場社会における非私的所有の公正性と政治的機能：セネガルにおける多重レイヤーシステムの社会的経済」『社会人類学年報』47 : 1-28, 2021.

「途上国へのスタディ・ツアー」岡本美代子他編『海外で国際協力をしたい人のための活動ハンドブック：事前準備から，現地の暮らし，仕事，危機管理，帰国まで』遠見書房, p. 137-139, 2021.

学　　位　　博士（学術）（2000 年、東京大学）

宮田　伊知郎　教授

専門分野

アメリカ研究、アメリカ史

研究紹介

第二次世界大戦後から現在までのアメリカ南部の都市において、人種・ジェンダー・階級間の関係がどのように変化したのか、そしてそうした変化が政治や社会にいかなる影響をもたらしたのかを歴史学的に研究しています。

著書・論文

・"'A Must for Atlanta's Future': Metropolitan Atlanta and the Rapid Transit Idea, 1963-65." *Japanese Journal of American Studies*. Vol. 33 (2022): 67-85.

・『よくわかるアメリカの歴史』（梅﨑透、坂下史子との共編著、ミネルヴァ書房、2021 年）。

・『現代アメリカ政治外交史――「アメリカの世紀」から「アメリカ第一主義」まで』（青野利彦、倉科一希との共編著、ミネルヴァ書房、2020 年）。

・「ハナミズキの街」アトランタの形成 ――新旧『都市危機』の連続性に関する試論」『アメリカ史研究』42 号（2019 年）:19-36 頁。

・「未来都市の米国現代史――郊外化、開発、ジェントリフィケーションにおける排除と包摂」『歴史学研究』（2017 年度年次大会増刊号）No. 963（2017 年):136-44 頁。

・「『ポスト郊外』世代による現代都市史の困難と可能性――反開発運動と都心回帰の連続をめぐる一考察」『アメリカ史研究』39 号（2016 年）: 3-26 頁。

翻　　訳

・ブライアン・サイモン著『ハムレット火災事件――「チープ化」が生んだ現代アメリカの悲劇』（玉川大学出版部、2024 年）。

・ブライアン・サイモン著、宮田伊知郎訳　『お望みなのは、コーヒーですか――スターバックスからアメリカを知る』（岩波書店、2013 年）。

学　　位　　Ph.D. in History (University of Georgia, 2010)

柳川　陽介　講師

専門分野

韓国近代文学

研究紹介

主に 1930 年代の朝鮮で活躍した文学者とその作品について研究しています。とくに李泰俊と古美術の関係につい

て興味があり、洋画家や骨董品収集家との交友関係を整理してきました。現在は翻訳を取り巻く諸問題や、日本における韓国文学の受容にも関心があります。

著書・論文

『韓国文学を旅する 60 章』（共著、明石書店、2020 年）

「創作と編輯－李文求の編集者時代を中心に」『尚虚学報』49 号、尚虚学会、2017 年 2 月、pp. 307-349.

「李泰俊と陶磁器－日本語随筆「破片的な話」と城北洞を中心に」『尚虚学報』51 号、尚虚学会、2017 年 10 月、pp. 187-221.

「白楊堂研究－仁谷裵正国と文学関連書籍を中心に」『韓国学研究』仁荷大学校韓国学研究所、2018 年 8 月、pp. 67-103.

「近代朝鮮における古典認識について―『文章』（1939-1941）を中心に」『日本韓国研究』1 号、 日本韓国研究会、2021 年 9 月、pp. 23-36.

「朝鮮人蒐集家たちの書画骨董認識－1930-40 年代を中心として」『韓国朝鮮の文化と社会』20 号、韓国・朝鮮文化研究会、2021 年 10 月、pp. 86-102. 張紋碩、柳川陽介訳「金史良とドイツ文学」『言語社会』14 号、一橋大学大学院言語社会研究科、2020 年 3 月、pp. 80-97.

学　　位　　修士（文学）（東京外国語大学、2016 年）

山中　信彦　教授

専門分野

言語学、特に意味論と語用論

研究紹介

我々人間が言語を理解する際に用いる知識や方略とはどのようなものであるかを様々な角度から考えています。具体的には、社会的な文脈における単語の意味解釈、認知科学に基づく自然言語理解、法言語学的語用論などが研究テーマです。その多くは「多義性（ambiguity）」に関わります。

著書・論文

『「まじめ」な日本の私――ことばにゆれる心と社会』明石書店、312頁、2011年。

『世界の裁判 見て歩こう　わたし流外国語上達法 』幻冬舎ルネッサンス新書、244 頁、2018 年。

「日本語の多義的な名詞修飾構造の解析」『言語研究』第94号、75-99頁、1988年。

「自白調書のコミュニケーション論的分析」『埼玉大学紀要（教養学部）』第29巻、189 - 242頁、1994年。

"A Text Analysis of Confessions from Psychological Viewpoints: A Study of a Bribery Case", *International Journal for the Semiotics of Law*, Deborah Charles Publications, No.19, pp.41-50, 1994.

"On Indirect Threats", *International Journal for the Semiotics of Law*, Deborah Charles Publications, No.22, pp.37-52, 1995.

「『まじめ』の意味分析」『国語学』第191集､98-110頁、1997年12月。

「いわゆる『若い男と女』の多義性について」山田進・菊地康人・籾山洋介編『日本語　意味と文法の風景』ひつじ書房、257-273頁、2000年。

「新聞記事コーパスにおける性暴力表現―「強姦」とその言い換え―」『埼玉大学紀要（教養学部）』第41巻第２号、165 - 226頁、2006年。

「『まじめ』の多義性と経年変化」上野善道監修『日本語研究の12章』明治書院、266-279頁、2010年。

"The Resolution of Ambiguities in Coordinate Noun Phrase Structures in Japanese: a corpus-based study", 『埼玉大学紀要（教養学部）』第48巻第２号、219 - 255頁、2013年。

“Prototype-based pragmatics of confessing”, *International Review of Pragmatics*, Brill, 16(1) pp.110–147,　2024. 2.

劉　志偉　教授

専門分野

日本語教育学、日本語文法研究史

研究紹介

日本語教育と日本語文法の史的研究を中心に研究しています。学習経験者の立場から日本語教育のための文法シラバスと語彙シラバスの構築を目指しています。特に日本語母語話者の教師が見落としがちな点を学習者ならではの視点から提言してまいります。

著書・論文

『「姉小路式」テニヲハ論の研究』京都大学学術出版会、2012 年

『敬語三分類に拠らない現代日本語の敬語指導に関する提案―外国人の目から見た日本語の一環として―』日中言語文化出版社、2022 年

『学習経験者の視点から見た日本語教育文法―ニア・ネイティブレベルを目指すために―』日中言語文化出版社、2022 年

『ニア・ネイティブレベルを目指すための語彙学習―日本語学習の経験者の視点から―』日中言語文化出版社、2023 年

「「姉小路式」及びその周辺に於ける「休めの類」」『日本語の研究』5-3（『国語学』通巻 238 号）、日本語学会、2009 年

「テニヲハ研究書と連歌論書における文法事項の交渉―「姉小路式」の記述を手掛かりに―」『日本語の研究』6-2（『国語学』通巻 241 号）、日本語学会、2010 年

「（特集 2018,2019 年における日本語学界の展望）研究史」『日本語の研究』16-2、日本語学会、2020 年

「（特集日本語教育）学習過程における「モヤモヤ感」について」『日本語文法』23-1、日本語文法学会、2023 年

学　　位　　博士（人間・環境学）（2009 年、京都大学）

2025 年度　埼玉大学大学院人文社会科学研究科
（博士後期課程）日本アジア文化専攻

入　学　志　願　票

受験番号	※記入しないでください。

選抜区分	社会人 A･B　一般　外国人留学生

ふりがな		性別	男・女	生年月日（年齢）	年　月　日生
氏　名					（満　歳）

出身大学等	大学	国・公・私立　大学　学部　学科（課程） 年　月　日　卒業・卒業見込・　年次在学中
	大学院	国・公・私立　大学大学院 研究科（修士・博士前期・　）　専攻 年　月　日　修了・修了見込・　年次在学中

年　月　日	経　歴（大学卒業から）
年　月　日	
年　月　日	
年　月　日	
年　月　日	
年　月　日	
年　月　日	
2024年12月現在	

現　住　所	〒　電話（　）　－ ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ
合格通知書受信場所	〒　電話（　）　－

希望指導教員名（記入は任意です）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

希望する審査分野・領域（ひとつ選んで枠内に数字を記入してください）

①国際関係論／国際開発学　②社会学／文化人類学／地理学
③哲学／芸術論　④歴史学／考古学
⑤日本・アジア文化（文学／芸術／思想）　⑥日本語学／日本語教育学／言語学

志願票・受験票・写真票 記入上の注意

1．黒のペンまたはボールペンを使用し、文字は楷書、数字は1.2.3.……の算用数字を用いて、ていねいに記入すること。
2．該当箇所をもれなく記入、または〇で囲み、※欄は記入しないこと。
3．年月日等を記入する欄は、西暦を基本とするが、平成・令和等の元号で記入しても差し支えない。
4．大学については、学部・学科および卒業年月日等を記入すること。
また、大学院については研究科・専攻および修了（見込）年月日等を記入すること。
5．出身校が外国の場合、国名を記入すること。
6．現住所は、出願後連絡のとれる住所を記入すること。
7．経歴欄は、大学卒業後から現在(出願時)に至るまでの経歴について詳記すること。
8．合格通知書受信場所欄は、合格通知書等を発表当日受け取れない者に送付するためのものであるから、確実に受信できる住所を記入すること。提出後、変更のある場合は、直ちに連絡すること。
9．志願票・受験票・写真票の提出後は、記入事項の変更はできない。
10．事実と相違していることを記載したときは、入学後でも入学許可を取り消すことがある。

きりとること

〇

2025年度　埼玉大学大学院
人文社会科学研究科日本ｱｼﾞｱ文化専攻

受　　験　　票

受験番号	※
フリガナ	
氏　　名	

1．受験の際はこの受験票を必ず持参すること。
2．この受験票は入学時まで保存すること。

写 真 貼 付

（4cm×3cm）
出願３ヶ月以内に撮影した脱帽上半身のもの

(縦４㎝・横３㎝)

きりとらないこと

2025年度　埼玉大学大学院
人文社会科学研究科日本ｱｼﾞｱ文化専攻

写　　真　　票

受験番号	※
フリガナ	
氏　　名	

写 真 貼 付

（4cm×3cm）
出願３ヶ月以内に撮影した脱帽上半身のもの

(縦４㎝・横３㎝)

履　　歴　　書（外国人留学生用）
Personal History

埼玉大学大学院人文社会科学研究科

氏　名（カタカナ） Name（in Japanese Katakana）			
氏　名（ローマ字） Name（In Roman Block Capitals）			
	Family Name	First Name	Middle Name

①　学　歴　（Educational Background）

	学校名・所在地 Name and Location of School	入学および修了（卒業）年月 Year and Month of Entrance and Completion	修業年限 Required Number of Years of Schooling
小　学　校 Elementary School	学校名　Name	入学 From　Yr 年　Mo 月	年 Yrs
	所在地　Location	卒業To　Yr 年　Mo 月	
中　学　校 Lower Secondary School	学校名　Name	入学 From　Yr 年　Mo 月	年 Yrs
	所在地　Location	卒業To　Yr 年　Mo 月	
高等学校 Upper Secondary School	学校名　Name	入学 From　Yr 年　Mo 月	年 Yrs
	所在地　Location	卒業To　Yr 年　Mo 月	
大　　学 Under-graduate Level	学校名　Name	入学 From　Yr 年　Mo 月	年 Yrs
	所在地　Location	修了 To　Yr 年　Mo 月	
大　学　院 Graduate Level	学校名　Name	入学 From　Yr 年　Mo 月	年 Yrs
	所在地　Location	修了 To　Yr 年　Mo 月	
以上を通算した全学校教育修学年数 Total of the years of schooling mentioned above			年 Yrs

② 研究歴または職歴 （Research or Professional History）

研究（勤務）先および所在地 Institution and Location	期間 Period	身分 Position	研究（勤務）内容 Type of Work

③ 国 籍 （Nationality）

④ 自国の住所 （Address in Your Country）

記入上の注意

1. 日本語または英語で記入すること。
2. 数字は算用数字を用いること。
3. 年号はすべて西暦とすること。
4. 固有名詞はすべて正式な名称とし、一切省略しないこと。

Notes

1. Fill in in Japanese or English.
2. Numbers should be in Arabic figures.
3. Year should be written in the Anno Domini system.
4. Proper nouns should be written in full, and not be abbreviated.

（入学資格審査用　様式ｉ）

令和　　年　　月　　日

埼玉大学大学院人文社会科学研究科長　殿

2025年度　埼玉大学大学院人文社会科学研究科［博士後期課程］
入学資格個別審査申請書

私は、入学資格の個別審査を受けたいので、申請いたします。

出願資格	社会人　Ａ・Ｂ （6）　（7） 一　般 （6）　（7） 外国人留学生 （6）　（7）	※　学生募集要項の１～５ページに記載されている、出願資格の種類および番号を〇で囲むこと。
志望専攻	日本アジア文化専攻	
フリガナ		
氏　　名		
フリガナ		
現住所	〒 TEL　　-　　-	
フリガナ		
連絡先	〒 TEL　　-　　-	
備　　考		

（入学資格審査用　様式ⅱ）

令和　　年　　月　　日

2025年度　埼玉大学大学院人文社会科学研究科［博士後期課程］
経　　歴　　書

氏　　名
性　　別　　男　　女
生年月日　　年　　月　　日生

○最終学校卒業（修了）年月

年　　月～　　年　　月	卒業・修了（見込）

○上記以外の学習歴、職歴、実務経験歴および活動歴等がある場合は、年代の古い順に、その内容についても詳しく記入してください（下記に記入しきれない場合は、適宜別紙に記入してください）。

期　　間 （　年　月　～　年　月　）	内　　容

（入学資格審査用　様式ⅲ）

令和　　年　　月　　日

研　　究　　歴　　証　　明　　書

埼玉大学大学院人文社会科学研究科長　殿

研究機関等の長　　印

研究歴について、下記のとおり証明いたします。

氏　　名
性　　別　　男　　女
生年月日　　年　　月　　日生

研究歴［卒業（修了）後の研究歴を年代の古い順に記入するとともに、その内容についても詳しく記入してください。］（下記に記入しきれない場合は、適宜別紙に記入してください。

期　　間 （　年　月　～　年　月　）	内　　容

収納証明書貼付用紙

コンビニ　収納証明書貼付欄

コンビニで受け取った取扱明細書または取扱明細書兼領収書の**「収納証明書」**部分を切り取り、点線の中にはがれないようにしっかりと貼り付けること。

※「感熱・感圧などを変色させることがあります」と記載のある糊は使用しないこと。

大学使用欄

経理課確認欄	研究科受付欄

埼玉大学大学院人文社会科学研究科（博士後期課程）

埼 玉 大 学 大 学 院 人 文 社 会 科 学 研 究 科
博士後期課程日本アジア文化専攻　入試情報開示申請書

年　　月　　日

埼玉大学大学院人文社会科学研究科長　殿

申　請　者

住　　所	〒		
氏（ふりがな）名			
生年月日	年　　月　　日	電話番号	

下記のとおり入学試験の成績等について情報開示を申請します。

記

※該当する項目を記入してください。

入　学　試　験　年　度	2025 年度　入学試験
受　　験　　番　　号	
受験学部・学科（課程）等	人文社会科学研究科日本アジア文化専攻

開示請求方法

申 請 者：受験者本人に限る。

請求方法：１．必要事項を記入した「埼玉大学入試情報開示申請書」

２．返信先の住所・氏名を記載し、４６０円分の切手を貼付した返信用封筒（定型（12,0cm×23,5cm）、「簡易書留」と朱書すること。）

３．本学の受験票（本人確認のため、正本に限る。コピー不可。）

上記１，２，３を取り揃えて下記申請先まで郵送すること。

申 請 先：〒３３８－８５７０ 埼玉県さいたま市桜区下大久保２５５

埼玉大学大学院人文社会科学研究科支援室大学院係

（「入試情報開示請求」と朱書すること。）

コンビニエンスストアでの入学検定料払込方法

お申込みの前に

お支払い手続きの途中で「8桁の番号」の入力が求められます。
出願書類に記載したいずれかの電話番号の下8桁を入力してください。
例：07012345678 の場合 → 12345678
0481234567　の場合 → 81234567

電話番号メモ（8桁）

下記のコンビニ端末にてお支払いください

1 お申込み

セブン-イレブン

マルチコピー機

https://www.sej.co.jp/services/multicopy

最寄りの「セブン-イレブン」にある「マルチコピー機」へ。

TOP画面の「学び・教育」よりお申込みください。

学び・教育
↓
入学検定料等支払
▼

LAWSON Loppi　MINISTOP Loppi

https://www.lawson.co.jp　https://www.ministop.co.jp

最寄りの「ローソン」「ミニストップ」にある「Loppi」へ。

TOP画面の「各種サービスメニュー」よりお申込みください。

「各種申込（学び）」を含むボタン
↓
学び・教育・各種検定試験
↓
大学・短大、専門、
小・中・高校等お支払い
▼

▼
埼玉大学大学院 をタッチし、申込情報を入力して「払込票／申込券」を発券ください。

＊画面ボタンのデザインなどは予告なく変更となる場合があります。

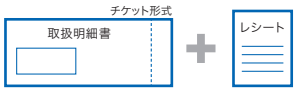
2 お支払い

①コンビニのレジでお支払いください。

端末より「払込票」（マルチコピー機）または「申込券」（Loppi）が出力されますので、
30分以内にレジにてお支払いください。

②お支払い後、チケットとレシートの2種類をお受け取りください。

「取扱明細書」（マルチコピー機）または「払込受領証」（Loppi）。



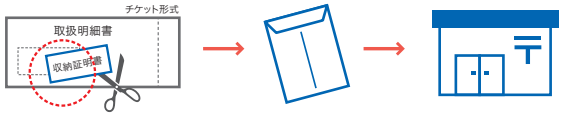
＊お支払い済みの入学検定料はコンビニでは返金できません。
＊お支払期限内に入学検定料のお支払いがない場合は、入力された情報はキャンセルとなります。
＊すべての支払方法に対して入学検定料の他に、払込手数料が別途かかります。

払込手数料	入学検定料が5万円未満	550円（税込）

3 出願

「取扱明細書」または「払込受領証」の「収納証明書」部分を切り取り、入試要項などの指示に従って郵送してください。
（※お客様控えは、郵送せずお手元に大切に保管をしてください。）

貼付する場合、「感熱・感圧紙などを変色させる場合があります」と記載のある糊は使用しないでください。「収納証明書」が黒く変色する恐れがあります。



※申込み時に入力した8桁の番号が収納証明書に印字されていることを確認してください。

【入試・出願に関するお問い合わせ先】　募集要項に記載の連絡先へお問い合わせください。
【検定料の払込に関するお問い合わせ先】　埼玉大学　経理課出納担当　TEL 048-858-3942（受付時間）平日9:00～17:00
【操作などのお問い合わせ先】　学び・教育サポートセンター　https://e-apply.jp/e/guide/　※コンビニ店頭ではお応えできません。